香川県埋蔵文化財調査年報

平成7年度

1996.3

香川県教育委員会

- 1. 本書は、平成7年度の県内における埋蔵文化財保護行政及び発掘調査の概要集である。
- 2. 発掘調査結果の概要を掲載した遺跡の位置は各遺跡毎に示し、文化財保護法に関する届出等については一覧表 (P4~P19) に示した。
- 3. 本文頁は通し番号としたが、挿図・図版番号は遺跡ごとに付した。
- 4. 遺跡の配列は、県教委主体の調査、市町教委等主体の調査の順とした。後者については原則として西から東の地域への順とした。
- 5. 香川県教育委員会事務局文化行政課職員が発掘調査指導を行った遺跡は、各市町の了解のもとに収録した。
- 6. 各遺跡の位置については、国土地理院発行の25,000分の1地形図を使用した。
- 7. 各遺跡の編集は執筆者が行い、全体編集を文化行政課が行った。

1. 平成	7年度埋蔵文化財保護行政の動向	•••••	•••••		1
2. 平成	7年度埋蔵文化財保護行政,調査の	の状況			
	年度 文化財保護法に関する届出				
(1)			••••	••••••	4
(2)	埋蔵文化財発掘の届出・通知(5	· 7条の2	. 3)	•••••	4
(3)			••••		8
発掘調	査の概況	,			Ū
(1)	平塚	20	(26)	羽床城跡	5
(2)	旧練兵場遺跡	22	(27)	藤尾城跡	52
(3)	法勲寺跡	24	(28)	上天神遺跡	53
(4)	行末遺跡	26	(29)	松林遺跡	54
(5)	西村遺跡	27	(30)	日暮 · 松林遺跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	55
(6)	香西南遺跡	29	(31)	宮尻上遺跡	56
(7)	特別名勝 栗林公園	30	(32)	宮尻・一角遺跡	57
(8)	松並・中所遺跡	31	(33)	三谷町南海道推定地	58
(9)	農学部遺跡	32	(34)	上西原遺跡	59
(10)	沖代水田遺跡	34	(35)	川南遺跡	60
(11)	母神山古墳群 (久米塚古墳)	36	(36)	若宫本村地区	61
(12)	母神山古墳群		(37)	奥の坊遺跡	62
	(瓢箪塚古墳 他)	37	(38)	金川渕古墳	63
(13)	宮山窯跡・深山窯跡	38	(39)	大空古墳	64
(14)	三井遺跡	39	(40)	西浦谷南地区遺跡	65
(15)	宮が尾古墳・宮が尾2号墳	40	(41)	西土居遺跡群	66
(16)	香色山遺跡群	41	(42)	花池尻遺跡	68
(17)	櫛梨城跡	42	(43)	寺尾古墳群	69
(18)	中の池遺跡	43	(44)	尾崎西遺跡	70
(19)	平池西遺跡	44	(45)	陵遺跡	7]
(20)	清源寺古墳	45	(46)	北山·乙井地区	
(21)	櫃石大阪城残石	46		(北山遺跡:八坂墳墓群)	72
(22)	金山古墳	47	(47)	石仏遺跡	73
(23)	讃岐国府跡	48	(48)	白鳥廃寺	74
(24)	行末西遺跡	49	(49)	馬宿畑方遺跡	76
(25)	佐古川遺跡	50			
2 / 山 禾	川県埋蔵文化財調査センターの発制	D 3H → J1	esen		_
u · WJ/戸	カロタマメモルBX X 11.8/1 前川/日*ユ´ノ グ ~ (/) 金利	ま かい インイス	.4π. •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	77

1. 平成7年度埋蔵文化財保護行政の動向

1. はじめに

県教育委員会では、平成6年度に引き続き、国及び県の各種開発事業予定地の試掘調査を国庫補助事業等で実施するとともに、小規模な事前の発掘調査を実施した。県教育委員会が実施した試掘調査は30件、事前の発掘調査は6件であるが、ほかに、専門職員のいない町において、県教育委員会が協力をして実施した調査が5件(試掘調査4件、事前の発掘調査1件)ある。以上のほか、四国横断自動車道(高松市内区間、津田~引田区間)の建設予定地の分布調査を実施し、高松市内区間で6遺跡・11地点、津田~引田区間で22遺跡・37地点の遺跡の存在が予想され、これらについて平成8年度から事前の発掘調査を実施することとなった。

また、大規模な発掘調査とこれに伴う整理作業については、側香川県埋蔵文化財調査センターに委託し、センターでは、16遺跡、48,634㎡の発掘調査を実施するとともに、過去に発掘調査を受託した遺跡のうち、6遺跡の整理作業と8遺跡の報告書印刷を行った。

一方、市町については、県下全体で30件の試掘調査を実施したが、そのうち4件は県教育委員会の協力のもとに実施した。また、発掘調査については、遺跡保護を目的とした調査、事前の発掘調査を合わせて26件(うち1件は県の指導により実施)あり、ほかに史跡整備に伴い善通寺市有岡古墳群・丸亀市丸亀城跡で2件の発掘調査が実施された。

2. 埋蔵文化財保護体制の整備

平成7年度の香川県では、一部の地域で埋蔵文化財調査の広域的な対応が開始されるなど、 市町の埋蔵文化財保護体制の整備において新たな方向があらわれた。

これは、平成7年6月1日から、大川郡8町で構成する一部事務組合の大川地区広域行政振興整備事務組合(以下「大川広域事務組合」という)に2名の埋蔵文化財専門職員を配置して、管内8町の埋蔵文化財調査を実施するものであるが、調査の実施にあたっては、調査主体である町教育委員会の要請によって専門職員を派遣することとしたため、大川広域事務組合に教育委員会を設置せずに行うこととなった。また、寒川町については、埋蔵文化財調査の広域処理構想に参加しながら、町教育委員会に専門職員を残すこととなった。

一方、平成7年12月に文化庁から「埋蔵文化財保護体制の整備充実について」と題する報告が出され、「地域の文化財は地域で保存し活用する」という理念のもと、市町村におけるより一層の埋蔵文化財保護体制の整備、管内市町村に対する県の調整・指導体制等の整備等を求めるとともに、専門職員の相互派遣、職員資質の向上、民間活力の適切な活用等について新たな考え方や基準等が述べられている。今後の香川県の埋蔵文化財保護体制を整備するうえで重要である。

平成7年度末の香川県下の埋蔵文化財保護体制は、県教育委員会文化行政課の埋蔵文化財担当職員4名(専門職員3・教員1、うち専門職員1名は兵庫県へ派遣)・財団法人香川県埋蔵文化財調査センターの調査担当職員23名(専門職員16・教員7)の合計27名、市町の埋蔵文化財専門職員については、東讃の大川郡寒川町と西讃の三豊郡高瀬町に新たに専門職員が配置され、5市38町のうち5市7町に配置されている。また、大川郡を構成する8町においては大川広域事務組合の2名の専門職員が発掘調査を行うことから、全市町数に対する埋蔵文化財調査

に即応できる職員の配置率は昨年度の27%から44%になった。しかしながら、まだ6割の町には調査能力を有する専門職員が配置されておらず、適正な保護体制の整備にはまだまだ課題が多い。

県内の埋蔵文化財専門職員の配置状況

香川県	27名	三木町	1名
高松市	3名	国分寺町	1名
丸亀市	1名	綾歌町	1名
坂出市	1名	多度津町	1名
善通寺市	1名	高瀬町	1名
観音寺市	1名	豊中町	1名
寒川町	1名	大川広域	2名

3. 開発事業の動向と発掘調査の状況

国・県関係の開発事業については、瀬戸中央自動車道、四国横断自動車道(善通寺~豊浜間、高松~善通寺間)、新空港建設といった基幹交通網の建設・整備に継続して、高松東道路(三木~津田間)の建設が進められている。このような基幹交通網の整備の進展によって、周辺地域における県道等のアクセス道路の整備・空港跡地の再開発・高松港頭地区土地区画整理事業・工業団地の造成・住宅団地の造成などの基盤整備関係の開発の計画・実施が増加している。こうした多岐にわたる開発の増加により、埋蔵文化財保護業務は、内容の複雑化・事務量の増加が生じている。

4. 史跡の保存と活用

今年度、埋蔵文化財に係る新たな国・県の史跡・重要文化財の指定はなかった。また、国庫 補助による史跡整備事業として、丸亀市の史跡丸亀城跡、善通寺市の史跡有岡古墳群(宮が尾 古墳)の保存修理事業が実施された。また、史跡の土地公有化事業が大川町の富田茶臼山古墳 で実施されている。

史跡丸亀城では、引き続き石垣の修復が行われた。今年度は帯曲輪西石垣を対象とし、発掘 調査と石垣の撤去及び一部の積み直しを実施した。石垣の撤去時にぐり石を用いた排水施設が 確認されている。

史跡有岡古墳群(宮が尾古墳)の保存修理事業は3年計画の2年目にあたる。今年度は、史 跡内で新たに発見された宮が尾2号墳の発掘調査のほか、宮が尾古墳の発掘調査および墳丘復 元、周囲の擁壁工事等が行われた。

富田茶臼山古墳の公有化事業は、3年計画の2年目にあたり、7年度までで公有化を予定している19,896㎡のうち7,568㎡の公有化を完了した。

5. 発掘調査の成果

各時代ごとに、特徴的な調査を紹介する。

今年度は、旧石器時代・縄文時代については、いくつかの遺跡で遺物は出土したものの、新

しい知見を得るまでにはいたっていない。

弥生時代・古墳時代においては、昨年度に引き続き調査の行われた木田郡三木町の鹿伏・中 所遺跡において、自然河川から古墳時代前期頃と推定される井堰が検出された。また、善通寺 市の弘田川西岸遺跡は、弥生時代の大集落として知られる旧練兵場遺跡の西に隣接する遺跡で、 弥生時代中期から後期を中心とする竪穴住居67棟、一辺1m近い方形の掘り方をもつ掘立柱建 物跡などが検出されている。

木田郡三木町の西土居遺跡群においては、弥生時代中期から終末期にかけての方形台状墓・ 土壙墓・壺棺群のほか横穴式石室を主体部にもつ古墳 8 基の調査が行われ、墓制の変遷を知る 貴重な資料が得られた。また、大川郡津田町の野牛古墳は 5 世紀初頭と考えられる箱式石棺で、 珠文鏡・玉類が出土した。

古代から中世にかけては、善通寺市の香色山山頂で発見された経塚群の調査があげられる。 このうち1号経塚は上下2段の石郭をもつもので、上郭は盗掘を受けていたが下郭は盗掘を免れ、銅板製経筒・瓦質外容器・折り曲げられた太刀・短刀などが出土した。年代は12世紀前半と考えられる。本調査例は、偶然の機会に発見される場合が多い経塚にあって、詳細な発掘調査が為されたというだけでなく、真言宗総本山善通寺との関連が想定されるなど貴重な発見となった。

近世の発掘調査では高松城跡の調査があげられる。今年度は、県立歴史博物館建設予定地(5,000㎡)と港頭地区土地区画整理事業に伴う調査(900㎡)の2箇所で調査が行われた。歴史博物館予定地は、東の丸跡とその東辺に南北に配された堀跡にあたる。東の丸跡からは、中世から近代にいたる数期の遺構面を検出し、礎石建物・石列状遺構・石組溝・井戸等を検出している。また、堀跡からは東の丸の東辺を画する石垣を検出している。港頭地区は、西外曲輪にあたり近世生駒藩・松平藩の上級家臣の屋敷地にあたる。調査では礎石建物・石組溝・柵列等を検出した。

平成7年度 文化財保護法に関する届出等

I 遺跡発見の届出・通知(57条の5・6)

番号	位置	原因	発 見 者
1	大川郡津田町鶴羽849-5	道路	津田町長 三田文明
2	綾歌郡綾歌町栗熊東字下河西80-1	その他の開発	坂出土木事務所長 三谷雄二
3	木田郡三木町大字池戸2393	その他の開発	香川大学長 岡市友利
4	丸亀市金倉町道上	その他の開発	香川県知事 平井城一
5	大川郡引田町引田	その他の建物	香川県知事 平井城一
6	坂出市高屋町104-1, 105-1	道路	坂出土木事務所長 三谷雄二
7	高松市松並町938-1,938-4	道路	香川県知事 平井城一
8	仲多度郡満濃町大字長尾4	農業関連	満濃町土地改良区理事長 森 照一
9	高松市松並町1043-1, 3, 20	道路	香川県知事 平井城一

Ⅱ 埋蔵文化財発掘の届出・通知(57条の2・3)

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺記	歩 の	種 類	遺跡の時代	香川県文書番号·日付
1	砂入遺跡	木田郡三木町池戸字大塚 3011-2ほか	集	落	跡	弥生	7 教文発第15-1号
2	(仮)3号墓	大川郡白鳥町字市ヶ原2714	その	の他	の墓	近世	7 教文発第15-2号
3	弘田川西岸遺跡	善通寺市善通寺町909-1	集	落	跡	弥生	7 教文発第15-3号
4	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町二丁目 1番2号	集	落	跡	弥生	7 教文発第15-4号
5	平池西遺跡	丸亀市金倉町780-1ほか	集	落	跡	弥生	7 教文発第15-5号
6	西浦谷遺跡	木田郡三木町池戸	集	落	跡	弥生、古墳	7 教文発第15-6号
7	尾崎西遺跡	大川郡長尾町東1024-1	集落	跡、	古墳	古墳、中世	7 教文発第15-7号
8	笠山遺跡	坂出市谷町一丁目3996番3	散	布	地	旧石器、縄文	7 教文発第15-8号
9	百相坂遺跡	高松市仏生山町	集	落	跡	弥生	7 教文発第15-9号
10	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町1432番地ほか	散	布	地	弥生、奈良	7 教文発第15-10号
11	石仏遺跡	大川郡大川町石仏	集	落	跡	弥生、中世	7 教文発第15-11号
12	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶 字西村北4177番地3	集	.落	跡	中世	7 教文発第15-12号
13	城山城跡	坂出市西庄町字池内 1519番249	城	館	跡	奈良	7 教文発第15-13号
14	松林遺跡	高松市多肥上町1179番地 1 ほか	散布	i地集	落跡	弥生	7 教文発第15-14号
15	寺田・産宮通遺 跡	大川郡大川町大字富田西	集	落	跡	弥生	7 教文発第15-15号
16	小山・南谷遺跡	高松市新田町	集	落	跡	縄文、奈良、 中世	7 教文発第15-16号

発見年月日	遺跡の種類	遺跡の時代	指 導 内 容	香川県文書番号・日付
平7.5.22	散布地	古墳	工事立会	7教文発第16-1号 平7.7.17
平7.7.13	集落跡	弥生	発掘調査	7教文発第16-2号 平7.7.27
平7.10.16	集落跡	弥生	工事立会	7教文発第16-3号 平7.11.16
平7.11.14	集落跡	弥生	工事立会	7教文発第16-4号 平7.12.6
平7.11.12	集落跡	古墳	慎重工事	7教文発第16-5号 平7.12.12
平8.1.8	集落跡	中世	慎重工事	7 教文発第16-6号 平8.1.24
平8. 1. 23	集落跡	平安、中世	発掘調査	7教文発第16-7号 平8.2.7
平8.1.9	古墳	古墳	発掘調査	7 教文発第16-8号 平8.1.24
平8. 2. 16	集落跡	平安、中世	発掘調査	7 教文発第16-9号 平8.3.4

		声类工体		
事業目的	事 業 主 体	事業面積	事業期間	指導内容
その他の建物	郵政省	2,553m²	7. 7~8. 6	発掘調査
農業関連	大川土地改良事務所	95 m ²	7. 5. $1 \sim 7$. 9. 30	工事立会
河川	香川県	6,500m²	8. 4. 1~8. 12. 30	発掘調査
その他の建物、開発	国立善通寺病院	500 m²	7. 3. 27~ 7. 11. 30	発掘調査
農業関連、その他の 開発	丸亀市	1,800 m²	7. 7. 31~8. 3. 31	発掘調査
道路	建設省四国地方建設局	10,400 m²	7. 7. 31~8. 3. 20	発掘調査
農業関連	個人	650 m²	7. 4. 21~7. 5. 15	発掘調査
電気	四国電力株式会社	569 m²	7. 6. 1~8. 1. 31	工事立会
道路	香川県	1,600 m²	7. 4. 28~8. 3. 29	発掘調査
道路	高松市	780 m²	7. 6. 1~7. 12. 31	発掘調査
農業関連	大川土地改良事務所	55,400 m²	7. 5. 20~8. 1. 14	発掘調査・工 事立会・慎重
その他の建物	個人	159 m²	7.8.1~7.9.30	慎重工事
その他の建物	四国管区警察局	389.12m²	7. 8. 1~7. 9. 30	慎重工事
道路	高松市	850 m²	7. 7. 4~7. 12. 8	発掘調査
道路	香川県	5,160 m²	8. 1. 10~11. 3. 31	発掘調査
道路	香川県	2,038m²	7. 10~8. 3	発掘調査

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号 日付
17	兀塚遺跡	高松市檀紙町	集 落 路	东良	7 教文発第15-17号
18	佐古川遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊西1670番地	その他遺跡	亦	7教文発第15-18号
19	寺尾20~23号	大川郡志度町大字鴨部 字猿橋7316番地ほか	古均	古墳、中世	7 教文発第15-19号
20	八丁地遺跡	大川郡志度町大字志度	集 落 路	が	7 教文発第15-20号
21	讃岐国府跡	坂出市府中町字本村上所 5060-3ほか	官衙路	奈良、平安、 中世	7 教文発第15-21号
22	讃岐国府跡	坂出市府中町5110	官衙品	奈良、平安、 中世	7 教文発第15-22号
23	讃岐国府跡	坂出市府中町5133-5	官 衙 蹈	奈良、平安、中世	7 教文発第15-23号
24	行末西遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊西 字板井戸・富熊字沖	その他の遺跡	亦 弥生	7 教文発第15-24号
25	平池西遺跡	丸亀市金倉町1124ほか	散布均	也 縄文・弥生	7 教文発第15-25号
26	野牛古墳	大川郡津田町神野	古	實 古墳、中生	7 教文発第15-26号
27	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町1-3-1	集 落 蹈	が 弥生・古墳	7 教文発第15-27号
28	川津井手の上遺 跡	坂出市川津町井手の上	集 落 蹈	亦 弥生	7 教文発第15-28号
29	空港跡地遺跡	高松市林町2217-14	集 落 品	亦 平安・中世・ 近世	7 教文発第15-29号
30	幸田遺跡	大川郡志度町幸田	集落路	が縄文・古墳	7 教文発第15-30号
31	末 3 号窯跡	大川郡志度町末	生産遺品	亦 古墳、中世	7 教文発第15-31号
32	沙弥ナカンダ浜 遺跡	坂出市沙弥島北通り178-6	生產遺品	亦 縄文~中世	7.教文発第15-32号
33	佐古川遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊西 字大妻田1702	その他の遺跡	赤 弥生・奈良	7 教文発第15-33号
34	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶	集落	亦 平安・中世	7 教文発第15-34号
35	法勲寺跡	綾歌郡飯山町下法軍寺	社 寺 旨	奈良・平安・ 中世	7 教文発第15-35号
36	清源寺古墳	仲多度郡満濃町大字長尾 2578-1ほか	古	責 古墳	7 教文発第15-36号
37	上母神8号墳	観音寺市木之郷町字上羽上 469-内第2-甲ほか	古 均	費 古墳	7 教文発第15-37号
38	高松城跡	高松市玉藻町85番ほか	城 館 』	亦 近世	7 教文発第15-38号
39	西村遺跡	綾歌郡綾南町陶4176 -1	集落	亦 平安・中世	7 教文発第15-39号
40	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町2-1-1	集落	弥上・古墳	7 教文発第15-40号
41	極楽寺東古墳	大川郡長尾町東1444番地ほか	古 ;	費 弥生・古墳・ 中世	7 教文発第15-41号
42	櫛梨城跡	仲多度郡琴平町下櫛梨 1490-14ほか	城 館	弥 中世	7 教文発第15-42号
43	沙弥ナカンダ浜 遺跡	坂出市沙弥島北通り 151-2ほか	生産遺	跡 縄文~中世	7 教文発第15-43号
44	星が城跡	小豆郡内海町安田乙ほか	城館	- 中世	7 教文発第15-44号
45	金毘羅山遺跡	大川郡大内町水主	集落	弥 弥生~中世	7 教文発第15-45号

事業目的	事 業 主 体	事業面積 (m²)	事 業 期 間	指導内容
道路	香川県	5,000 m²	7. 9~9. 3	発掘調査
その他の開発	綾歌町	2,500 m²	7. 8. 22~8. 10. 21	発掘調査
学校	志度町	2,500 m²	7. 10. 2~9. 3. 31	発掘調査
道路	香川県	165 m ²	7. 8. 1~9. 3. 31	発掘調査
住宅	個人	244.58m²	7. 9. 15~8. 7. 30	発掘調査
住宅	個人	77.01 m²	7. 7. 1~7. 10. 7	工事立会
住宅	個人	496.44 m²	7.10.1~8.3下旬	工事立会
道路	綾歌町	3,200m²	7. 10. 6~8. 3. 29	発掘調査
その他の開発	丸亀市	700 m²	7. 10. 25~8. 3. 29	発掘調査
道路	建設省四国地方建設局	500 m²	8.9月頃~9.9月頃	発掘調査
その他の建物	農林水産省	296.90m²	7. 11. 10~8. 3. 25	発掘調査
道路	香川県	150 m ²	7. 11. 23~8. 2. 29	発掘調査
建設省四国地方建設 局		15,000 m²	8. 3. 1~9. 3. 31	発掘調査
道路	建設省四国地方建設局	1,600 m²	7. 9. 30~8. 11. 29	発掘調査
道路	建設省四国地方建設局	500 m²	7. 9. 19~9. 2. 28	発掘調査
その他の開発	坂出市	2 m²	7. 12. 18~7. 12. 2	工事立会
その他の建物	綾 歌町	4,303 m²	8. 3. 1~8. 6. 15	発掘調査
道路	香川県	140m²	7. 10. 30~8. 11. 2	発掘調査
河川	香川県	50 m²	8. 1. 16~8. 3. 31	発掘調査
農業関連	満濃町土地改良区	500 m²	8. 3. 20~8. 3. 31	発掘調査
公園造成	三豊地区広域市町村圏振 興事務組合	2,310m²	8. 7. 1~9. 1. 31	発掘調査
その他の建物	香川県	5,016m²	8.8月予定~11.2月 予定	発掘調査
河川	香川県	424 m²	7. 11. 27~8. 2. 29	慎重工事
その他の開発	国立善通寺病院	780 m²	7. 11. 5~8. 3. 31	工事立会
農業関連	個人	970 m²	7. 12. 11~8. 2. 15	発掘調査
公園造成	琴平町	440 m²	8.3.1~8.3.29	慎重工事
その他の開発	坂出市	2 m²	8. 3. 22~8. 3. 31	工事立会
その他の開発	内海町	1.28m²	8. 3上旬~8. 3下旬	工事立会
農業関連	香川県大川土地改良事務所	15,790m²	8. 1. 10~8. 5. 20	工事立会

Ⅲ 埋蔵文化財発掘調査の通知(98条の2)

3F. 🗆	遺跡				調	査
番号	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原因者
1	百相坂遺跡	高松市仏生山町	集落跡	弥 生	県道三谷香川線改良	香川県
2	西浦谷遺跡	木田郡三木町池戸	集落跡古 墳	弥生 ~古墳	国道バイパス建設	建設省
3	高 松 城 跡	高松市玉藻町	城 館 跡	近世	歴史博物館建設	香 川 県教育委員会
4	弘田川西岸遺跡	善通寺市善通寺町	集 落 跡	弥 生	中小河川弘田川改修	香川県
5	鹿伏・中所遺跡	木田郡三木町鹿伏	集落	弥 生	高校建設	香 川 県 教育委員会
6	平池南遺跡	丸亀市金倉町	集落跡	弥 生	陸上競技場建設	香 川 県 教育委員会
7	砂入遺跡	木田郡三木町池戸	集落跡	弥生 ~古墳	池戸郵便局建設	郵政省
8	栗熊西地区	綾歌郡綾歌町栗熊西	不 明	不 明	町立総合文化会館(仮称) 建設	綾 歌 町
9	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	集落跡	弥 生	国立善通寺病院施設整備	国立善通寺 病 院
10	沖代水田遺跡	大川郡引田町	散布地	弥生 ~古墳	大川東高校施設新築	香 川 県教育委員会
11	一丁地遺跡	綾歌郡綾歌町富熊	その他	その他	分譲住宅地造成	個 人
12	母神山古墳群	三豊郡観音寺市 木之郷町	古 墳	古 墳	三豊総合運動公園拡張事業	観音寺市
13	尾崎西遺跡	大川郡長尾町東	集落跡	古墳 ~中世	農用地整備	個人
14	城 山 遺 跡	坂出市西庄町	城 館 跡	奈 良	四国管区警察局城山無線 中継所建設	四国管区警察局
15	新 田 町 若宮本村地区	高松市新田町	集落跡	弥生 ~近世	市道室町新田線建設	高 松 市
16	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町	散布地	弥生 ~平安	市道福岡多肥上町線建設	高 松 市
17	松林遺跡	高松市多肥上町	集落跡	弥生 ~近世	県立桜井高校周辺通学路 建設	高 松 市
18	牟 礼 城 跡	木田郡牟礼町牟礼	城館跡	中世	宅地造成	高松東部農業協同組合
19	小山・南谷遺跡	高松市新田町	集落跡	奈 良	県道塩江屋島西線	香川県

		調		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	 査	
対 処	調査主体	調査面積	調査期間	調査担当者	費用負担	 調査後の措置
事前調査	県 教 委	1,400	$7. \ \ 4. \ \ 1$ $7. \ \ \widetilde{6}. \ 31$	(財香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	県 教 委	10,400	$7. \ \ \overset{4}{\cancel{0}}. \ \ \overset{1}{\cancel{0}}$ $8. \ \ \overset{\sim}{\cancel{0}}. \ \ 31$	脚香川県埋蔵文化財 調査センター	建設省	工事実施
事前調査	県 教 委	5,000	$7. \ \ \overset{4}{\cancel{0}}. \ \ \overset{1}{\cancel{0}}$ $8. \ \ \overset{\sim}{\cancel{0}}. \ \ 31$	脚香川県埋蔵文化財 調査センター	県 教 委	工事実施
事前調査	県 教 委	6,390	$7. \ \ \overset{4}{\cancel{0}}. \ \ \overset{1}{\cancel{0}}$ $8. \ \ \overset{\sim}{\cancel{0}}. \ \ 31$	(財香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	県 教 委	3,300	7. 4. 10 7. 8. 31	(財香川県埋蔵文化財 調査センター	県 教 委	工事実施
事前調査	県 教 委	4,000	7. $\underbrace{4.6}_{7.6}$ 6. 30	脚香川県埋蔵文化財 調査センター	県 教 委	工事実施
事前調査	県 教 委	2,070	$7. \ \ \frac{4}{7}. \ \ \frac{1}{7}. \ 31$	関香川県埋蔵文化財 調査センター	四国郵政局	工事実施
試掘調査	綾歌町教委	500	$7. \ \ \overset{4}{_{\sim}} \ \ \overset{17}{_{\sim}} \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ $	町教委 近藤 武司 県教委指導	綾 歌 町	包蔵地確認されず
事前調査	県 教 委	500	$7. \ \ \overset{4}{{\circ}}. \ 24$ $7. \ \ \overset{\circ}{{5}}. \ 27$	文化行政課 木下晴一・森下英治 ・塩崎誠司	国立善通寺病院	工事実施
試掘調査	県 教 委	20	7. 4. 17	文化行政課 森下英治・塩崎誠司	県 教 委	包蔵地確認されず
試掘調査	綾歌町教委	1,578	7. 4. 21	町教委 近藤 武司 県教委指導	 綾 歌 町 	包蔵地確認されず
事前調査	観音寺市教委	·143	$7. \ \ 5. \ \ 8$ $7. \ \ 5. \ \ 17$	市教委 久保田昇三	観音寺市	包蔵地確認 石室移築保存
事前調査	長尾町教委	650	7. 4. 21 ~~ 7. 5. 15	町教委 吹田 健児	長尾町	工事実施
試掘調査	県 教 委	30	7. 5. 22	文化行政課 森下 英治	香川県	包蔵地確認されず
試掘調査	高松市教委	600	$7. \ \ 4. \ 19$ $7. \ \ 5. \ 20$	市教委 山元 敏裕	高松市	包蔵地確認
事前調査	高松市教委	780	7. 6. 1 7. 12. 31	市教委 山本 英之	高 松 市	工事実施
事前調査	高松市教委	176	$7. \ \ 5. \ \ 19$ $7. \ \ \widetilde{6}. \ \ 17$	市教委 大嶋 和則	高松市	工事実施
試掘調査	牟礼町教委	200	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	町教委 中村 健児 県教委指導	牟 礼 町	包蔵地確認されず
試掘調査	県 教 委	20	7. 6. 26	文化行政課 森下英治・塩崎誠司	県 教 委	包蔵地確認、事前調 査、工事実施

番号	遺		 跡		調	查
留 写	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原因者
20	川津川西遺跡	坂出市川津町	集落跡	古墳~中世	国道438号線川津橋橋梁 整備	香 川 県
21	松林遺跡	高松市多肥上町	集落跡	弥生 ~近世	県立桜井高校周辺通学路 建設	高松市
22	香色山山頂遺跡	善通寺市善通寺町	集団墓	弥生 ~古墳	自然崩壊	
23	寺尾20号、21号、 23 号 墳	大川郡志度町鴨部	古墳	古墳	私立徳島文理大学香川校 学校用地造成	志 度 町
24	石 仏 遺 跡	大川郡大川町富田中	集落跡	弥生 ~中世	農用地整備	香川県
25	金 倉 地 区	丸亀市金倉町	不 明	不 明	中小河川西汐入川河川改修	香川県
26	由 佐 地 区	香川郡香南町由佐	不 明	不 明	香南地区ほ場整備事業	香川県
27	香西南地区	高松市香西南町	不 明	不 明	本津川河川改修	香 川 県
28	上天神遺跡	高松市上天神町	集落跡	弥 生	四国電力上天神変電所建設	四国電力
29	栗 熊 西 地 区	綾歌郡綾歌町栗熊西	不 明	不 明	町立総合文化会館(仮称) 建設	綾 歌 町
30	東 分 地 区	丸亀市飯野町	不 明	不 明	県道飯野宇多津線ふるさ とづくり道路整備	香 川 県
31	佐 古 川 遺 跡	綾歌郡綾歌町栗熊西	その他	弥 生	町立総合文化会館(仮称) 建設	綾 歌 町
32	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	集落跡	弥生 ~古墳	国立善通寺病院施設整備	国立善通寺 院
33	奥ノ坊1号墳	高松市高松町	古 墳	古 墳	高松市東部運動公園(仮 称)整備	高 松 市
34	小 飯 地 区	大川郡引田町南野	その他	奈 良	農業集落排水事業南野地 区処理施設工事	引 田 町
35	中の池遺跡	丸亀市金倉町	集落跡	弥 生	総合運動公園建設に伴う 水路整備	丸亀市
36	農学部遺跡	木田郡三木町池戸	集落跡	弥 生	香川大学農学部施設建設	香川大学
37	讃 岐 国 府 跡	坂出市府中町	官衙跡	奈良 ~中世	個人住宅造成	個 人
38	氷上寺ノ前地区	木田郡三木町氷上	不 明	不 明	公民館建設	三 木 町

		調	-	<u> </u>	查	
対 処	調査主体	調査面積	調査期間	調査担当者	費用負担	調査後の措置
試掘調査	県 教 委	35	7. 6. 29	文化行政課 塩崎 誠司	国· 県	包蔵地確認協議中
事前調査	高松市教委	690	$7. \ \ 7. \ \ 1$ $7. \ \ 12. \ 31$	市教委 大嶋 和則	高 松 市	工事実施
試掘調査	善通寺市教	50	7. $7. 10$ 7. $8. 31$	市教委 笹川 龍一	国・県・善善通寺市	現状保存
事前調査	志度町教委	2,500	7. 7. 10 7. 9. 30	大川広域 高畠 豊	志 度 町	工事実施
事前調査	大川町教委	1,600	7. $7. 1$ 7. $8. 31$	大川広域 萬木 一郎	国・県・町	工事実施
試掘調査	県 教 委	40	7. 7. 10	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
試掘調査	県 教 委	45	7. 7. 11	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
試掘調査	県 教 委	46	7. 7. 12	文化行政課 塩崎 誠司	県 教 委	包蔵地確認協議中
試掘調査	高松市教委	1,110	7. 7. 17	市教委 山本 英之	国·県·市 原 因 者	工事実施
試掘調査	綾歌町教委	1,166	7. 7. 30	町教委 近藤 武司	綾 歌 町	包蔵地確認 事前調査
試掘調査	県 教 委	40	7. 8. 8	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認協議中
事前調査	綾歌町教委	200	$7. \ \ 8. \ \ 21$ $7. \ \ 9. \ \ 10$	町教委 近藤 武司	綾 歌 町	工事実施
試掘調査	県 教 委	100	7. 8. 22	文化行政課 塩崎 誠司	国立善通寺病院	工事実施
試掘調査	高松市教委	20	7. 8. 7	市教委 大嶋 和則	高松市	工事実施
試掘調査	引田町教委	1,275	7. 7. 22	大川広域 萬木 一郎	引 田 町	包蔵地確認協議中
事前調査	丸亀市教委	500	7. 9. 1	市教委 東 信男	丸亀市	工事実施
試掘調査	県 教 委	25	7. 8. 31	文化行政課 塩崎 誠司	県 教 委	包蔵地確認されず
事前調査	坂出市教委	244	7.9下旬 ~ 10下旬	市教委 今井 和彦	国・県・市	工事実施
試掘調査	三木町教委	20	7. 8. 31	町教委 石井 健一	三木町	包蔵地確認されず

番号	遺		跡	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	調	 査
田石	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原因者
39	羽床城跡		城館跡	中 世	学術研究	綾 南 町
40	平木1号墳	高松市鬼無町	古 墳	古 墳	高松西高校施建設	香 川 県教育委員会
41	高 松 城 跡	高松市西の丸町	城 館 跡	近 世	高松港頭地区土地区画整理	香川県· 高 松 市
42	羽 間 地 区	仲多度郡満濃町羽	不明	不 明	採石工事	民 間
43	昭和・井上地区	大川郡長尾町昭和	不 明	不 明	高松東ファクトリーパー ク造成	香 川 県
44	兀 塚 遺 跡	高松市檀紙町	集落跡	奈良 ~平安	県道三木国分寺線道路改 良	香 川 県
45	幸田遺跡	大川郡志度町幸田	集落跡	縄 文	国道バイパス (高松東道 路) 建設	建設省
46	野牛古墳	大川郡津田町神野	古 墳	古 墳	国道バイパス (高松東道 路) 建設	建設省
47	寺田・産宮通遺跡	大川郡大川町富田西	集落跡	弥生 ~中世	県道富田西志度線道路改 良	香川県
48	八丁地遺跡	大川郡志度町志度	集落跡	縄文 ~中世	県道高松志度線道路建設	香川県
49	原中村遺跡	木田郡牟礼町原	集落跡	奈良 ~中世	県道高松志度線道路建設	香川県
50	東 分 地 区	丸亀市飯野町	集落跡	古墳 ~奈良	県道飯野宇多津線ふるさ とづくり道路整備	香川県
51	平 竹 地 区	大川郡志度町平竹	不 明	不 明	国道バイパス (高松東道 路) 建設	建設省
52	三 井 地 区	仲多度郡多度津町 三井	散布地	弥 生	町道建設予定地	多度津町
53	奥 白 方 地 区	仲多度郡多度津町 奥白方	散布地	弥 生	町道建設予定地	多度津町
54	青 木 地 区	仲多度郡多度津町	散布地	弥 生	町道建設予定地	多度津町
55	西浦谷南地区遺跡	木田郡三木町池戸	集落跡	-弥 生	地下げ造成	個 人
56	南天枝地区	木田郡三木町田中	不 明	不 明	県道高松長尾大内線道路 建設	香川県
57	母神山古墳群(久米塚古墳)	観音寺市粟井町	古 墳	古 墳	学術研究	観音寺市

		 調				
対 処	調査主体	調査面積	調査期間	調査担当者	費用負担	調査後の措置
試掘調査	綾南町教委	200	7. 9. 30 7. 10. 21	松本 豊胤	綾 南 町	現状保存
試掘調査	県 教 委	130	$7. \ \ \overset{9}{9}. \ \ \overset{4}{7}. \ \ \overset{\sim}{9}. \ 11$	文化行政課 塩崎 誠司	香川県	包蔵地確認協議中
試掘調査	県 教 委	50	7. 9. 11	文化行政課 森下 英治	国・県	包蔵地確認事前調査
試掘調査	満濃町教委	130	7. $9. 19$ 7. $9. 29$	多度津町教委 岡 敦憲	原因者	包蔵地確認されず
試掘調査	県 教 委	400	7. 9. 26 7. 9. 29	文化行政課 森下英治・塩崎誠司	国・県	包蔵地確認協議中
事前調査	県 教 委	5,000	7. 9. 1 8. 3. 31	(財香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	県 教 委	1,600	7. $\begin{array}{cccc} 7. & 8. & 1 \\ & \widetilde{} & \\ 7. & 9. & 30 \end{array}$	(財香川県埋蔵文化財 調査センター	建設省	工事実施
事前調査	県 教 委	500	7. $9. 25$ 7. $11. 27$	(財香川県埋蔵文化財 調査センター	建設省	工事実施
事前調査	県 教 委	5, 160	7. 10. 1 8. 3. 31	(財香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	県 教 委	165	7. $\begin{array}{ccc} 7. & 7. & 3 \\ & \widetilde{8}. & 31 \end{array}$	(財香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
試掘調査	県 教 委	30	7. 9. 26	文化行政課 塩崎 誠司	国· 県	包蔵地確認
試掘調査	県 教 委	30	7. 10. 4	文化行政課 塩崎 誠司	国 · 県	包蔵地確認
試掘調査	県 教 委	100	7. 10. 6	文化行政課 森下 英治	国· 県	包蔵地確認されず
試掘調査	多度津町教委	150	7. 10. 4 8. 3. 31	町教委 岡 敦憲	国・県・町	包蔵地確認されず
試掘調査	多度津町教委	50	7. 10. 4 8. 3. 31	町教委 岡 敦憲	国・県・町	
試掘調査	多度津町教委	50	7. 10. 4 8. 3. 31	町教委 岡 敦憲	国・県・町	
試掘調査	三木町教委	20	7. 10. 12	町教委 石井 健一	三木町	包蔵地確認 協議中
試掘調査	県 教 委	300	7. 10. 30	文化行政課 森下 英治	国・県	包蔵地確認 協議中
試掘調査	観音寺市教委	4, 981	7. 10. 23	市教委 久保田昇三	観音寺市	現状保存

	遺				調	査
番号	名 称	所 在 地	種 類	時代	原 因	原因者
58	白 鳥 廃 寺 跡	大川郡白鳥町湊	社 寺 跡	奈良 ~平安	町道山下住宅線局部改良	白 鳥 町
59	川南遺跡	高松市春日町	散布地	中世 ~近世	市道室町新田線建設	高松市
60	寺田大角遺跡	大川郡大川町富田中	集落跡	弥 生	町道川向線建設	大 川 町
61	六 車 城 跡	大川郡大川町富田中	城 館 跡	中 世	谷町地区圃場整備	土地改良区
62	西山田古墳群	大川郡長尾町造田	古墳	古 墳	工業団地造成	長尾町
63	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	集 落 跡	弥 生	四国農業試験場施設新設	四国農業試験場
64	奥 の 坊 遺 跡	高松市高松町	散布地	弥生 ~古墳	高松市東部運動公園(仮 称)整備	高 松 市
65	松並地区	高松市松並町	不 明	不 明	県道高松川東線道路建設	香川県
66	西・名地区	大川郡長尾町西・名	集落跡	弥生 ~中世	宅地造成	県 住 宅 供給公社
67	川津井手の上遺跡	坂出市川津町	集落跡	弥 生	国道438号線道路建設	香川県
68	池戸四角寺地区	木田郡三木町池戸	不 明	不 明	住宅建設	個人
69	二ノ宮瓦窯跡	三豊郡高瀬町羽方	生産遺跡	平 安	公共施設建設	高 瀬 町
70	南海道、山田香川郡界線推定地	高松市多肥上町	その他	奈 良	学術研究	市教委
71	西 村 遺 跡	綾歌郡綾南町陶	集落跡	平安 ~中世	県道府中琴南線交通安全 施設整備	香 川 県
72	上西原遺跡	高松市木太町	散布地	弥生 ~奈良	市道伏石大池線建設	高 松 市
73	金 山 古 墳	坂出市川津町	古 墳	古 墳	学術研究	市教委
74	宮西一角遺跡	高松市林町	散布地集落跡	.弥 生	市道林町47号線改良	高 松 市
75	清源寺古墳	仲多度郡満濃町長尾	古 墳	古 墳	農業基盤整備	満濃町
76	宮 山 窯 跡	三豊郡豊中町比地	生産遺跡	古 墳	農道改良	香川県

		調			 査	1
対 処	調査主体	調査面積	調査期間	調査担当者	費用負担	調査後の措置
試掘調査	白鳥町教委	100	7. 10. 23 7. 10. 27	大川広域 萬木 一郎	白 鳥 町	工事実施
試掘調査	高松市教委	700	7. 10. 19 7. 10. 24	市教委 山本 英之	国・県・市	包蔵地確認 事前調査
試掘調査	大川町教委	520	7. 11. 13 7. 11. 17	大川広域 萬木 一郎	国・県・町	包蔵地確認 協議中
試掘調査	大川町教委	17,950	7. 11. 6 7. 11. 10	大川広域 萬木 一郎	国・県・町	包蔵地確認されず
事前調査	長尾町教委	3,000	7. 10. 30 7. 12. 28	大川広域 高畠 豊	長尾町	工事実施
事前調査	県 教 委	80	7. 11. 2 7. 11. 7	文化行政課 塩崎 誠司	四国農業試験場	工事実施
試掘調査	高松市教委	2,000	7. 11. 20 7. 12. 31	市教委 大嶋 和則	高松市	包蔵地確認協議中
試掘調査	県 教 委	50	7. 11. 21	文化行政課 塩崎 誠司	香川県	包蔵地確認されず
試掘調査	長尾町教委	300	7. 11. 7 7. 11. 13	大川広域 高畠 豊	長尾町	包蔵地確認事前調査
事前調査	県 教 委	150	$7. \ 11. \ 27$ $7. \ 12. \ 8$	文化行政課 森下 英治	香川県	工事実施
試掘調査	三木町教委	10	7. 11. 30	町教委 石井 健一	三 木 町	包蔵地確認されず
試掘調査	高瀬町教委	16	7. 12. 11 7. 12. 15	町教委 佐柳 真樹	高瀬町	包蔵地確認されず
試掘調査	高松市教委	5,550	7. 12. 4	市教委 山本 英之	国・県・市	現状保存
事前調査	県 教 委	80	7. 12. 12 7. 12. 15	文化行政課 塩崎 誠司	香川県	工事実施
事前調査	高松市教委	1,250	7. 12. 4 8. 3. 31	市教委 山本 英之	高松市	工事実施
試掘調査	坂出市教委	100	7. 12. 13 8. 1. 31	市教委 今井 和彦	国・県・市	現状保存
事前調査	高松市教委	500	7. 12. 8 8. 3. 31	市教委 山元 敏裕	高 松 市	工事実施
事前調査	満濃町教委	500	7. 12. 13	多度津町教委 岡 敦憲	満濃町	工事実施
試掘調査	豊中町教委	500	7. 12. 20	豊中町教委 森 裕行	国・県・町	包蔵地確認現状保存

番号	遺		 跡		調	 査
留写	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原因者
77	末 3 号 窯 跡	大川郡志度町末	生産遺跡	奈 良	国道バイパス (高松東道 路)建設	建設省
78	高 松 城 跡	高松市西の丸町	城 館 跡	近 世	高松港頭地区土地区画整理	香川県
79	春日地区	仲多度郡仲南町春日	不 明	不明	中讃南部地区広域農道建設	香川県
80	石清尾山山頂地区	高松市鶴市町	不 明	不 明	石清尾山山頂へリポート 造成	香川県
81	法勲寺跡	綾歌郡飯山町 下法軍寺	社寺跡	奈 良	中小河川大東川河川修繕	香川県
82	行 末 西 遺 跡		その他	弥 生	町道西行末本村線拡張	綾 歌 町
83	川向下地区	高松市西山崎町	不明	不 明	宅地造成	個り
84	佐 古 川 遺 跡	綾歌郡綾歌町栗熊西	その他	弥生 ~奈良	町立総合文化会館(仮称) 建設	綾 歌 町
85	母神山古墳群	観音寺市木之郷町	古 墳	古 墳	三豊総合運動公園拡張事業	観音寺市
86	西町地区	大川郡津田町相地	不 明	不 明	国道バイパス (高松東道 路) 建設	建設省
87	松並中所遺跡	高松市松並町	集落跡	平安 ~中世	都市計画道路錦町国分寺 綾南線道路改良	香川県
88	下高瀬地区	三豊郡三野町下高瀬	不 明	不 明	農村活性化住環境整備	香川県
89	下屋敷地区	大川郡大内町水主	不 明	不 明	県営ほ場整備	香川県
90	田面本村地区	大川郡大川町田面	城 館 跡	中 世	特別養護老人ホーム新築	大川町
91	藤尾城跡	高松市香西本町	城 館 跡	中 世	香西公民館拡張・改築	高松市
92	畑 方 地 区	大川郡引田町馬宿	散布地	奈 良	農業集落排水事業黒羽地 区処理施設建設	引 田 町
93	櫛 梨 城 跡	仲多度郡琴平町	城 館 跡	中 世	琴平町ふれあいの森整備	琴平町
94	宮尻上遺跡	高松市多肥上町	その他	奈 良	学術研究	市教委
95	極楽寺東古墳	大川郡長尾町東	古 墳	弥生 ~中世	農用地整備	個人

		調			 査	
対 処	調査主体	調査面積	調査期間	調査担当者	費用負担	調査後の措置
事前調査	県 教 委	500	$7. 12. 1$ $8. \widetilde{2}. 15$	(財香川県埋蔵文化財 調査センター	建設省	工事実施
事前調査	県 教 委	970	7. 12. 1 8. 3. 31	(財香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
試掘調査	県 教 委	30	8. 1. 16	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
試掘調査	県 教 委	12	8. 1. 18 8. 1. 19	文化行政課 森下 英治	香川県	包蔵地確認されず
試掘調査	県 教 委	10	8. 1. 11	文化行政課 森下 英治	県 教 委	包蔵地確認 事前調査
事前調査	綾歌町教委	3,200	7. 10. 22 7. 12. 31	町教委 近藤 武司	綾 歌 町	工事実施
試掘調査	高松市教委	12	7. 12. 25 7. 12. 27	市教委 山元 敏裕	国・県・市	包蔵地確認されず
事前調査	綾歌町教委	4,303	8. 1. 11 8. 3. 31	町教委 近藤 武司	綾 歌 町	工事実施
事前調査	観音寺市教委	2,310	8. 2. 5 8. 3. 31	市教委 久保田昇三	観音寺市	工事実施 (石室移築復元)
試掘調査	県 教 委	100	8. 1. 22 8. 1. 24	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
事前調査	県 教 委	40	8. 1. 23	文化行政課 森下 英治	香川県	工事実施
試掘調査	県 教 委	50	8. 1. 25 8. 1. 26	文化行政課 森下 英治	国・県	包蔵地確認協議中
試掘調査	県 教 委	100	8. 1. 26 8. 1. 29	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 事前調査
試掘調査	大川町教委	90	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	大川広域 高畠 豊	大 川 町	包蔵地確認されず
試掘調査	高松市教委	60	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	市教委 藤井 雄三	国・県・市	工事実施
試掘調査	引田町教委	2,572	8. 1. 29 8. 1. 30	大川広域 高畠 豊	引田町	包蔵地確認 事前調査
事前調査	琴平町教委	440	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	町教委 澤井 達朗	琴平町	工事実施
事前調査	高松市教委	1,550	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	市教委 山本 英之	国・県・市	現状保存
事前調査	長尾町教委	970	7. 12. 11 $\widetilde{2}$. 15	大川広域 萬木 一郎	町・個人	工事実施

番号		遺			5	 弥			調		査		
留写	名 移	ý	所 在	王 地	種	類	時	代	原	因	原	因	者
96	花池尻・藤井	地区	大川郡志周	度町志度	散力	布 地	中	世	町道藤村西線改	文良	志	度	町
97	松並中所達	遺跡	高松市松園		集系	落 跡	平安~	中世	都市計画道路銷 綾南線道路改良	第町国分寺 と	香	Щ	県
98	田中地	区	木田郡三元	卜町田中	不	明	不	明	県営ほ場整備		香	Л	県
99	始 覚 寺	跡	木田郡三元	卜 町井上	社	寺 跡	奈	良	農村活性化住理	環境整備	香	Ш	県
100	法 勲 寺	跡	 綾歌郡飯L 寺	山町下法軍	社	寺 跡	奈良~	中世	中小河川大東川	河川修繕	香	Ш	県
101	大 空 古	墳	高松市高村	公町	古	墳	古	墳	高松市東部運動 称)整備	か公園 (仮	高	松	市
102	金川渕古	ī 墳	高松市高村	公町	古	墳	古	墳	高松市東部運動 称)整備	か公園 (仮	高	松	市
103	道端地	区	香川郡香川	町道端	不	明	不	明	県道岩崎高松線	泉道路建設	香	Л	県
104	七ツ塚7号	号 墳	仲多度郡為	満濃町長尾	古	墳	古	墳	農業基盤整備		土地	也改且	支区
105	平塚地	区	三豊郡大野	野原町 大野原	古	墳	古	墳	町立健康交流が	施設建設	大里	野 原	町
106	川南・東泊	遺跡	高松市春日	目町	散	布 地	奈良~	近世	市道室町新田線	泉整備	高	松	市
107	川南・西泊	遺跡	高松市春日	∃町	散力	布 地	奈良~	近世	市道室町新田線	泉整備	高	松	市
108	馬 ぜにがみ石:	石 遺跡	坂出市櫃石	<u> </u>	生産	遺跡	近	世	学術研究		市	教	委
109	小山・南谷:	遺跡	高松市新田	日町	集	落 跡	奈良~	中世	県道高松志度総	泉道路改良	香	Щ	県
110	空港跡地主	遺跡	高松市林岡	丁新町	集	落 跡	古	代	四国工業技術研	开究所增 築	建	設	省

	<u> </u>	調			査	
対 処	調査主体	調査面積	調査期間	調査担当者	費用負担	調査後の措置
試掘調査	志度町教委	70	8. $2. 7$ 8. $\widetilde{2}. 17$	大川広域 高畠 豊	志度町	包蔵地確認事前調査
事前調査	県 教 委	130	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	文化行政課 塩崎 誠司	香川県	工事実施
試掘調査	県 教 委	120	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	文化行政課 森下英治・塩崎誠司	国・県	包蔵地確認 協議中
試掘調査	県 教 委	230	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	文化行政課 森下 英治	国・県	包蔵地確認 現状保存
事前調査	県 教 委	30	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	文化行政課 森下 英治	香川県	工事実施
事前調査	高松市教委	150	8. 2. 14 8. 2. 23	市教委 大嶋 和則	高松市	工事実施
事前調査	高松市教委	250	8. 2. 26 8. 3. 15	市教委 大嶋 和則	高 松 市	工事実施
試掘調査	県 教 委	140	8. 3. 13 8. 3. 15	文化行政課 塩崎 誠司	香川県	包蔵地確認されず
事前調査	満濃町教委	94	8. 3. 11 8. 3. 31	多度津町教委 岡 敦憲	町 土地改良区	工事実施
試掘調査	大野原町教委	140	8. 3. 18 8. 3. 21	町教委 藤川 正明 県教委指導	大野原町	包蔵地確認 現状保存
事前調査	高松市教委	2,000	8. 3. 18 8. 6. 28	市教委 大嶋 和則	高松市	工事実施
事前調査	高松市教委	2,000	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	市教委 大嶋 和則	高松市	工事実施
学術調査	坂出市教委	400	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	市教委 今井 和彦	国・県・市	現状保存
事前調査	県 教 委	2,654	$7. \ \ 7. \ \ 1$ $7. \ \ 9. \ 30$	(財香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	県 教 委	2,780	$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	建設省	工事実施

- 1. 所 在 地 三豊郡大野原町大字平塚
- 2. 調查主体 大野原町教育委員会
- 3. 調査期間 平成8年3月18日~20日
- 4. 調査面積 約60m²
- 5. 調查担当者 大野原町教育委員会 調查指導者 文化行政課 塩崎誠司
- 6. 調査の原因 大野原町薬草温泉建設
- 7. 調査結果の概要

県内最大規模を誇る大型円墳「平塚」は、大野原町のほぼ中心部に位置し、同様の規模を持つ「椀貸塚」「角塚」とともに県指定史跡となっている。この古墳群の所在する地域は、四国横断自動車道大野原インターチェンジ設置に伴い、中央公園の造成等、近年開発の進んだ地域第1



第1図 遺跡の位置(「讃岐豊浜」)

でもある。今回、町が「平塚」の西側に接して薬草温泉の建設を計画したことに伴い、平塚周辺の指定範囲外への遺跡の広がりを確認するため、試掘トレンチを設定した。調査の結果、平塚を巡る道路に接する付近で、周溝の落ち込みを検出した。この周溝は現在の道路部に戦後間もなくまで機能していたことが伝えられている。また、周溝のさらに外側で幅約2m深さ約20cmの溝を検出した。この溝は設定した全てのトレンチで検出され、特に開口部近くで設定したトレンチからは多量の須恵器片が出土している。

8. まとめ

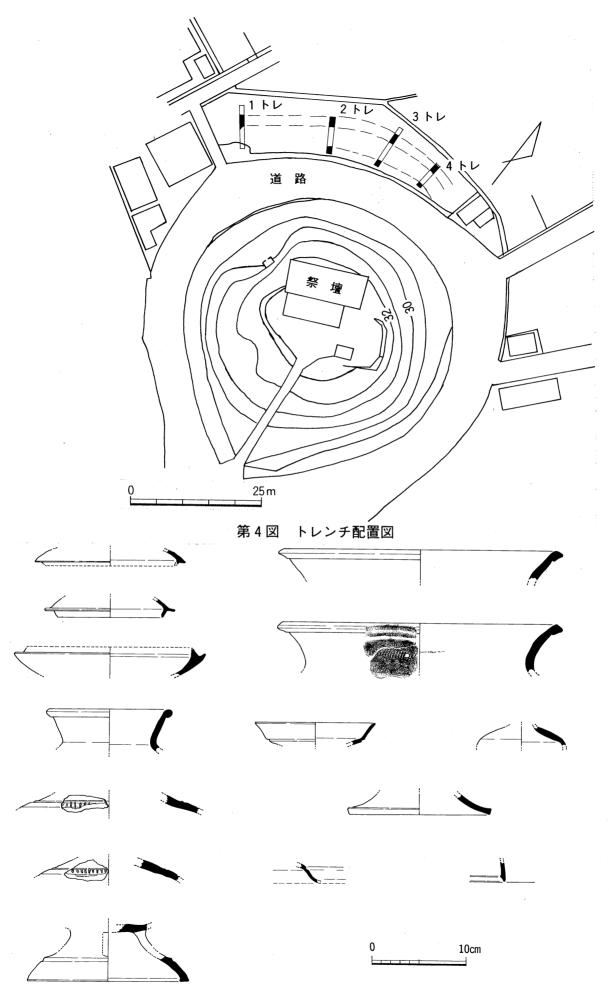
今回の調査で検出された平塚周溝の外側に巡る溝は、調査区内では確実に平塚の墳丘をめぐる。周辺の状況が明らかでないため断言できないが、二重の周溝である可能性が高いと考えられる。この溝から出土する須恵器は7世紀初頭~7世紀中葉の所産と考えられ、二重の周溝と考える場合、7世紀前半の築造と考えられていた本墳は、一連の系譜を持つと考えられている椀貸塚・角塚両墳を含めた築造時期の年代観と大きく矛盾する点はない。なお、史跡指定範囲外で平塚に関連をもつ可能性の高い遺構が検出されたことにより、指定範囲の再検討を含めた早急な古墳群の整備・活用が望まれる。 (塩崎)



第2図 トレンチ遺構検出状況



第3図 2トレンチ全景



第5図 1トレンチ出土遺物実測図

きゅう れん ぺい じょう 旧練兵場遺跡

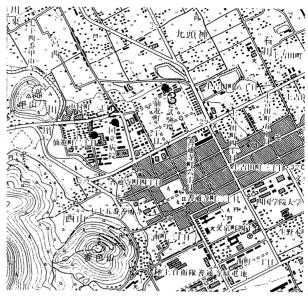
- 1. 所 在 地 善通寺市仙遊町
- 2. 調査主体 香川県教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年4月14日~6月16日 8月22日~24日 11月2,6,7日
- 4. 調査面積 約915m²
- 5. 調查担当者 文化行政課

木下晴一 森下英治 塩崎誠司

6. 調査の原因 国立善通寺病院施設整備等 四国農業試験場施設整備等

7. 調査結果の概要

旧練兵場遺跡は、四国農業試験場及び国立善 通寺病院敷地内に広がる弥生~古墳時代にかけ ての大規模な集落跡で、西側に隣接する彼ノ宗



第1図 遺跡の位置(「善通寺」)

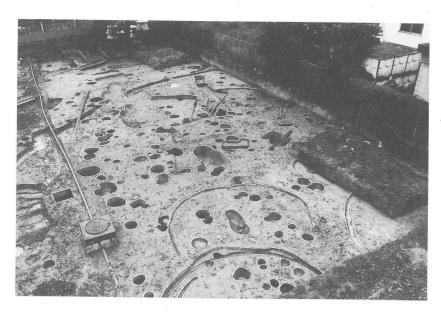
遺跡、今年度に側香川県埋蔵文化財調査センターが本調査を行った弘田川西岸遺跡をあわせる と、県内最大規模の当該期集落跡であると推定される。

今年度は、各種事業に伴い2件の事前調査及び1件の試掘調査を実施した。内容は以下のとおりである。試掘調査では、古代後半を主体とする柱穴等を検出し、中世土器も出土している。以上により、当遺跡は弥生時代以降連綿と継続した複合遺跡であることが判明した。しかし、当遺跡の調査は現在までのところ部分的な調査のみであり、全容の解明にむけて今後の調査結果が待たれるところである。なお、本調査については報告書に詳述する予定である。

(塩崎)

	事	業	名	種	別	調査面積	内容					
1	国立善 棟新設		院研修	事前調査		690 m²	竪穴住居跡12棟・掘立柱建物跡 6 棟・甕棺 墓 5 基・柱穴、土坑、溝多数					
2	国立善通寺病院看護 学校新設等						柱穴・溝等					
3	四国農業試験場実験 事 施設新設工事		事前		調査	80 m²	竪穴住居跡 2 棟・掘立柱建物跡 1 棟・溝 2 条・柱穴等					

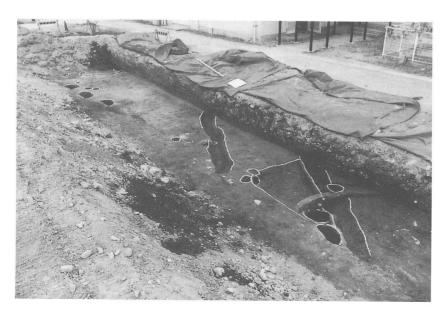
(番号は位置図に対応する)



第2図 国立善通寺病院 研修棟調査区全景



第3図 国立善通寺病院 看護学校遺構検出状況



第4図 四国農業試験場 実験施設調査区全景

はう くん じ **熱 動 寺 跡**

- 1. 所 在 地 綾歌郡飯山町下法軍寺
- 2. 調査主体 香川県教育委員会
- 3. 調査期間 平成8年2月6~16日
- 4. 調査面積 約40m²
- 5. 調查担当者 文化行政課 森下英治
- 6. 調査の原因 大窪谷川災害復旧工事に伴う 事前調査

7. 調査結果の概要

調査地は寺域の北限を画すると推定されている大窪谷川(大東川支流)の南側護岸部分で、延長約16mである。調査の結果、地表下約1mまで礫混じりの護岸盛土層が確認され、その下位地表下1.8mまで礫混じりの流路堆積層が認められた。



第1図 遺跡の位置(「善通寺」)

流路は現河川とほぼ平行して走行したものと思われ、堆積層下位には褐色粘土が薄く堆積している。底面は黄灰色粘質土層である。この状況から、流路は一定期間滞水状態にあった後、流水や土石流等により埋没したものと推定され、元来自然に形成されたものとは考えにくい。これは調査地の東で自然傾斜に反して流路が南側に走行し、地元では「さかさま川」と呼ばれている状況とも合致して、人工的に掘開された流路(溝)であったことを補強するものと考え得る。

出土遺物は、最下層の褐色土層では土器片少量しか出土しなかったが、その上位の流路堆積層からは白鳳時代から室町時代の瓦が多数出土した。伴出した須恵器片は10世紀後半の多嘴壷と考えられる。一般の集落跡ではみられない特殊器種である⁽¹⁾。

8. まとめ

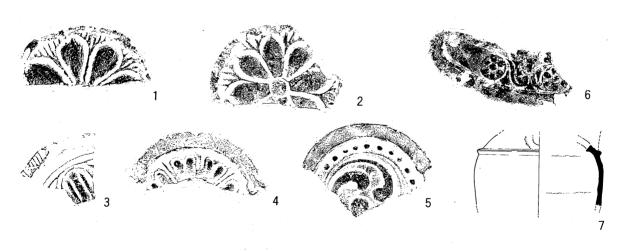
法勲寺跡は香川県西部に多い川原寺系瓦をもつが、それ以前に高句麗様式瓦をもつことから、白鳳時代でも比較的古い時期の創建が想定される。所用瓦窯は飯山町瓦谷窯跡と考えられているが、基本的には HK107型式²³以降の瓦を供給している。それ以前の高句麗様式瓦は今回の出土例を含めて、焼成のあまい土師質のものが多く認められ、HK107型式が原則として須恵質であることと対照的である。今回出土した土師質の平瓦片には、風化の著しいサヌカイト剥片が胎土中に含まれるものがあった。法勲寺周辺ではこれまで旧石器の採集遺物が多く知られており、寺院周辺の粘土を使用して瓦を焼成した可能性も考慮する必要があろう。

検出した流路は寺域を画する北限大溝の可能性があるが、調査範囲が狭く確定できない。また、新旧の瓦が同時に出土しており、資料的にも限界がある。しかし、当寺跡ではこれまで数々の小規模開発が繰り返され、ここ30年間で土壇が滅失するなど危機的な状況に置かれつつある。今後、寺域の確認と遺跡内容の確認を行い、早急に保護の措置を講じるよう、地元自治体の取組みが必要であろう。 (森下)

- 参考文献 (1) 奈良国立文化財研究所「薬師寺発掘調査報告」1987
 - (2) 高松市歴史資料館「讃岐の古瓦展」1996



第2図 周辺地割と寺域推定地(空中写真より作図、約1/500)



1. H K 101

2. H K 102

3. H K 107

4. H K 111

5. H K 206

(型式名は文献 2 による)

第3図 出土遺物拓影及び実測図(1/4)

行 末 遺 跡

- 1. 所 在 地 綾歌郡綾歌町栗熊東字下河西
- 2. 調查主体 香川県教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年7月14日
- 4. 調査面積 約20 m²
- 5. 調查担当者 文化行政課 塩崎誠司
- 6. 調査の原因 大東川流域下水道管渠工事
- 7. 調査結果の概要

大東川流域の下水管工事は、同河川に沿って 下流より行われてきたが、県道22号線沿いの綾 歌町内の工事に入り、事業主体である坂出土木 事務所の協力により、工事中の立会を継続的に 実施してきたところである。

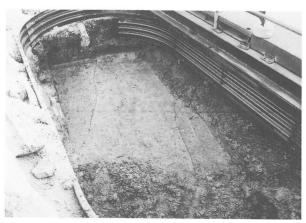


第1図 遺跡の位置(「滝宮」)

今回、栗熊地区の竪坑立会において、弥生時代前期の遺跡として著名な行末遺跡に近接する地点を掘削中に、同時期の所産と推定される溝状遺構が検出されたため、急遽事前調査を実施した。溝状遺構は現地表下約1.5m下で2条検出され、幅は調査面積が希少のため不明である。埋土は暗灰褐色砂粒土で、その上層で幅約10cmの黒褐色シルトの土器包含層が堆積している。出土した土器は僅かであるが行末遺跡から続く集落域であると考えられる。

8. まとめ

今回の調査は限られた範囲の調査であったため、遺構の性格等を明らかにすることはできなかったが、現地形は調査地より東側にむかって緩やかに下降しており、土器の出土状況からみても行末遺跡の縁辺部である可能性が高い。しかし、西側は安定した微高地及び丘陵地であることから、今後当該地周辺地区の開発に当たっては、事前に埋蔵文化財の包蔵状況を確認する等の措置が必要と考えられる。 (塩崎)



第2図 遺構検出状況



第3図 遺構断面

西村遺跡

- 1. 所 在 地 綾歌郡綾南町大字陶字西村北
- 2. 調査主体 香川県教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年12月11日~15日
- 4. 調査面積 約80 m²
- 5. 調查担当者 文化行政課技師 塩崎誠司
- 6. 調査の原因 県道府中琴南線交通安全施設 建設

7. 調査に至る経緯

調査地は、国道32号線バイパス建設に伴う発掘調査で古代末~中世にかけての大規模集落であることが判明した西村遺跡内に位置する。県道府中琴南線と国道32号バイパス交差点付近は通学路として利用されているが、交通量が非常に多いため、県坂出土木事務所により歩道の設



第1図 遺跡の位置(「白峰山」)

置が計画されていた。事業の連絡を受けた県教委では早急に分布調査を実施した結果、事業予定地は、前述したバイパス道路建設に伴う発掘調査地に隣接しており、かつ現地形も北条池に向かって下降する緩斜面地であったことから西村遺跡に継続する集落跡が所在する可能性は極めて高いと判断し、事前調査を実施した。

8. 調査結果の概要

調査の結果、耕作土直下に旧耕作土層(灰色シルト)が所在し、その下層から古代~近世の 土器片を僅かに含む薄い包含層(明灰色シルト)を検出した。遺構面はさらにその下層現地表 下約50cm程に所在し、黄灰色砂質土の地山層を掘り込む多数のピット・土坑(大甕埋設土坑を 含む)等を検出した。遺構から出土した遺物は僅かであるが近世後半を主体とする時期の所産 であり、その時期を明らかに遡る遺構等は検出されなかった。

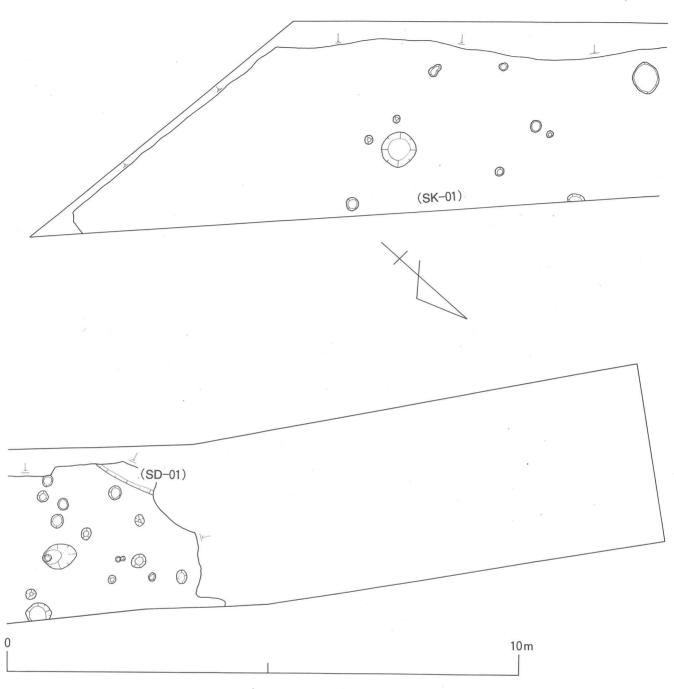
以上の調査結果及び周辺の遺跡の立地状況から考えて、当該地に古代末~中世の集落域が及 んでいたことはほぼ確実であるが、近世後半までの時期に削平を受け、すでに消滅してしまっ たものと考えられる。 (塩崎)



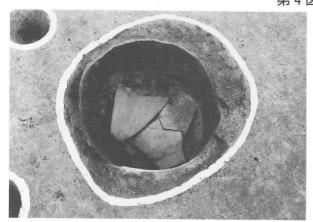
第2図 調査地遠景



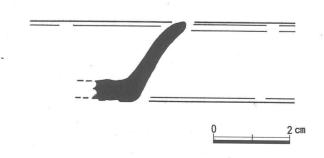
第3図 遺構掘削状況



第4図 遺構配置図



第5図 SK01 甕出土状況

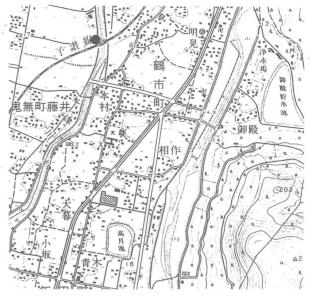


第6回 包含層出土遺物実測図

こう ざい みなみ 香 西 歯 遺 跡

- 1. 所 在 地 高松市香西南町田545
- 2. 調査主体 香川県教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年7月12日
- 4. 調査面積 約70m²
- 5. 調查担当者 文化行政課 塩崎誠司
- 6. 調査の原因 本津川河川改修工事
- 7. 調査結果の概要

調査地は、本津川にJR予讃線がかかる地点の北西部、同河川が形成した沖積地に位置している。周辺には五色台東麓に位置する中世城館として著名な、香西氏の拠点であった佐料城や藤尾城などが所在し、平野部に点在する塚を含めて、場合した中間では常いであった。



第1図 遺跡の位置(「高松南部」)

めて、遅くとも中世には開発が進んでいた地域であると推定される。

河川改修工事は、高松土木事務所河川課を事業主体として、河口部から順次工事が行われてきたが、調査地が現地形からみて若干の微高地状を呈していたため、事業者の協力を得て試掘調査を行った。調査の結果、現地表下約80cmで、中世土器を含む灰褐色砂質土層が所在し溝1条を検出した。

8. まとめ

今回の調査地は現本津川に隣接しており、検出した遺構は溝のみであったが、出土した土器は磨滅が少なく、同河川の流れ込みによる堆積物とは考えにくい。したがって、当該地周辺に中世集落が所在している可能性はかなり高いことが予想され、同平野部における遺跡の所在状況を知るうえで貴重な資料である。なお、当工事予定地については平成8年度に側香川県埋蔵文化財調査センターが調査を実施する予定である。 (塩崎)



第2図 トレンチ全景



第3図 鉄釘片出土状況

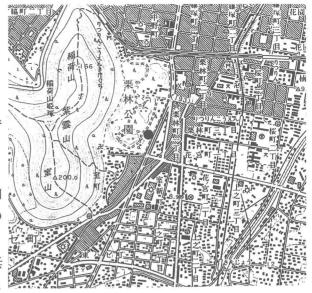
特別名勝 栗林公園

- 1. 所 在 地 高松市栗林町1564-2
- 2. 調査主体 香川県教育委員会
- 3. 調査期間 平成8年3月7,8日
- 4. 調査面積 約20m²
- 5. 調查担当者 文化行政課 森下英治
- 6. 調査の原因 栗林公園観光事務所造園課庁 舎改築工事に伴う試掘調査

7. 調査結果の概要

今回の調査地は、公園南の萩御門から公園内 に延びる園路北側で、平成6年度に建物既存の ために試掘調査できなかった箇所である。

3箇所でトレンチを設定し、地下遺構の有無 を確認した。その結果、地表下約60cmでガラス 片などを多数包含する明治以降の撹乱坑を検出



第1図 遺跡の位置(「高松南部」)

し、その下位には黄色系砂層が堆積していることが判明した。黄色系砂層は旧香東川の氾濫による堆積層であり、庭園造成時の基盤となる土層である。このうち、東側に設定した第3トレンチでは地表下約1.5mで基盤層に達するが、基盤層上に厚さ10cm程度の灰色系シルト層が堆積していた。これは、庭園造成時かあるいはそれ以前の耕作土壌層と考えられる。

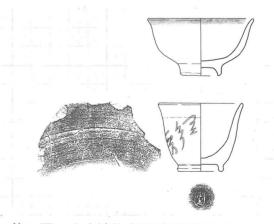
撹乱坑からは陶磁器類が出土したが、明治以降の碗や皿に混じって酒杯が多数認められた。 このなかには、図に示すような、「屋島」刻印が記されたものもあり、当該地が花見などを主 体とした観光地として一般に開放された以降の所産と判断できる。

8. まとめ

調査の結果、近世段階の庭園に関連する遺構・遺物は検出されなかった。平成6年度の試掘調査においては、当該地は絵図に「薮」と記されたとおり、庭園としての地形の改変等は行われていなかったことが判明している。今回の試掘調査では撹乱坑が多いために、考古学的な判断が困難であったが、出土遺物も近世に遡るものは出土していないため、前回の調査結果に合致するものと考えられる。 (森下)



第2図 トレンチ掘削状況



第3図 出土遺物(酒杯)実測図(1/2)

松並・中所遺跡

- 1. 所 在 地 高松市松並町938-1ほか
- 2. 調査主体 香川県教育委員会
- 3. 調査期間 平成8年1月13日 2月16日~20日
- 4. 調査面積 約180m²
- 5. 調査担当者 文化行政課 森下英治 塩崎誠司
- 6. 調査の原因 都市計画道路錦町国分寺綾南 線道路改良工事

7. 調査結果の概要

調査地は古墳時代前期の積石塚が集中することで知られる石清尾山山塊南麓の平野部に位置し、旧香東川の北岸付近にあたるが、条里地割が明確に遺存している地域である。

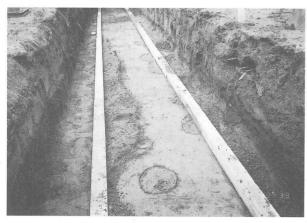


第1図 遺跡の位置(「高松南部」)

道路改良工事に先行しておこなわれた側壁の埋設工事に伴い、古代末~中世前半を主体とする遺構・遺物が確認されたため、急遽事前調査を実施し記録保存を行った。調査の結果、現地表下約80~90cmに遺構面があり、埋土は暗灰色シルトで黄褐色シルトのベースを掘り込んでいる。検出した遺構は柱穴・土坑・溝等である。柱穴は調査範囲が狭いため、復元は困難であるが掘立柱建物を構成すると推定される。

8. まとめ

今回の調査は限られた範囲の調査であったため、遺跡の規模等詳細な状況を明らかにすることはできなかったが、当該地には古代から中世にかけての集落が展開していることが判明した。石清尾山南麓の平野部は弥生時代以降数多くの遺跡の所在が知られており、連綿と集落が形成されていたと考えられる。したがって、当平野部及び周辺の開発にあたっては事前に埋蔵文化財の包蔵状況を確認する等適切な保護措置を図る必要がある。 (塩崎)



第2図 遺構検出状況(1次)



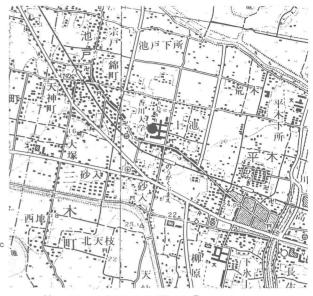
第3図 遺構完掘状況(2次)

のう がく ぶ 農 学 部 遺 跡

- 1. 所 在 地 木田郡三木町池戸2393
- 2. 調査主体 香川県教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年10月16日~20日
- 4. 調査面積 約80m²
- 5. 調査担当者 文化行政課 塩崎誠司
- 6. 調査の原因 香川大学農学部給水管等改修
- 7. 調査結果の概要

農学部遺跡は、昭和43年春の校舎新築工事中 に現地表下約2m程下から弥生時代前期の良好 な土器群が発見されて以降、県内を代表する遺 跡でありながらその実態は不明な点が多かった。

今回、農学部の敷地内を南北に縦断するよう に給水管等の改修工事が計画されていたことよ り、立会調査をおこなった。その結果、農学部



第1図 遺跡の位置(「志度」)

敷地南部では、地下約1.4m程下から灰褐色の中世土器包含層が検出され、2m以上下から弥生前期後半の土器を含む黒褐色シルト層を検出した。とくに昭和43年の土器出土地に接した箇所では、現地表下3~4mから同時期の良好な弥生土器が多量に出土しており、埋土の状況から大溝の一部である可能性が高い。また、敷地北部でも同様に弥生土器が出土している。

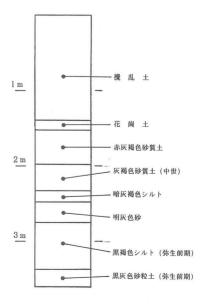
8. まとめ

農学部遺跡は今回の調査により、弥生時代の他に敷地南部には中世の集落域が広がることが確認された。また、弥生時代前期後半の包含層は、従来考えられていたよりもかなり深く埋没しており、同時期で同様の埋没状況を示す志度町鴨部川田遺跡とともに、東讃での遺跡の立地状況を考えるうえで非常に興味深い。また、敷地西部では旧流路と考えられる灰色砂層中より若干であるが弥生時代後期後半の土器も出土しており、周辺に当該期の集落が所在する可能性もある。

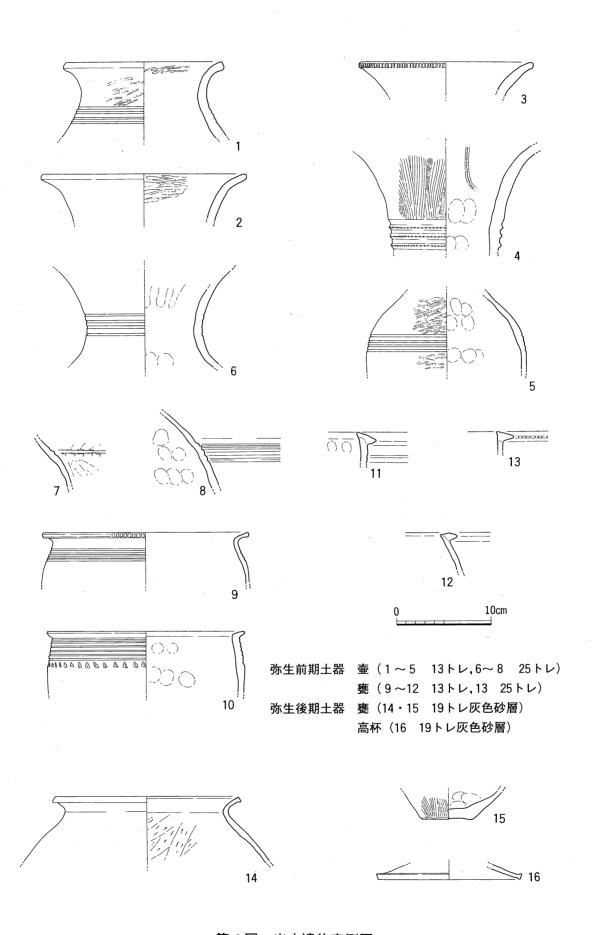
以上の調査結果により、農学部敷地内ほぼ全域に弥生時代を中心とする遺跡の広がりが確認されたが、給水管工事立会という性格上、遺跡の全容の解明には至っておらず、今後の調査が期待される。 (塩崎)



第2図 13トレンチ全景



第3図 13トレンチ土層柱状図



第4図 出土遺物実測図

** だい すい でん 沖 代 水 田 遺 跡

- 1. 所 在 地 大川郡引田町引田545
- 2. 調査主体 香川県教育委員会
- 3. 調査期間 平成8年3月7日~8日
- 4. 調査面積 約150m²
- 5. 調查担当者 文化行政課 塩崎誠司
- 6. 調査の原因

7. 調査結果の概要

調査地は、大川東高校敷地内の南側に位置し 古墳時代~奈良時代の土器が出土している沖代 水田遺跡に隣接する。実習棟新築に先立ち、遺 跡の範囲確認のため、平成7年4月に試掘調査 を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。



第1図 遺跡の位置(「引田」)

ところが、実習棟周辺の給水管埋設工事時に、5世紀末葉を中心とする土師器片・須恵器片 が出土したため、急遽事前調査を実施し記録保存を行った。調査の結果、調査地東側を中心に 暗灰褐色系の埋土をもつ竪穴住居跡2棟・ピット等を検出した。住居跡からは、須恵器片の他、 高杯を中心とする良好な土師器が出土している。また、西側では灰褐色砂質土の弥生土器包含 層が検出され、後期後半を中心とする土器片が多量に出土している。

8. まとめ

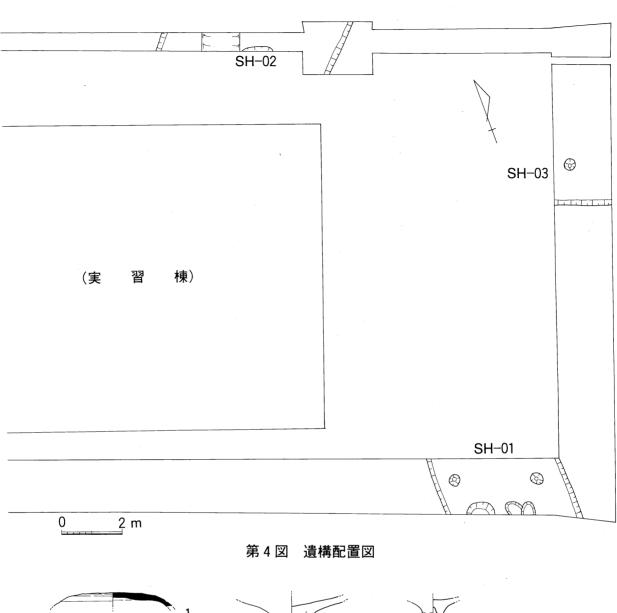
今回の調査は限られた範囲の調査であったため、検出した竪穴住居の規模・構造等、遺跡の 全容を明らかにすることはできなかった。しかし、旧地形を考えてみると、この集落は海を控 えた微高地上に営まれていたことが考えられ、引田平野における当該期の遺跡立地を考えるう えで貴重な資料である。また、当平野における遺跡の所在状況は現在十分に把握されておらず、 今後周辺地域の調査についても積極的に進めていく必要がある。 (塩崎)

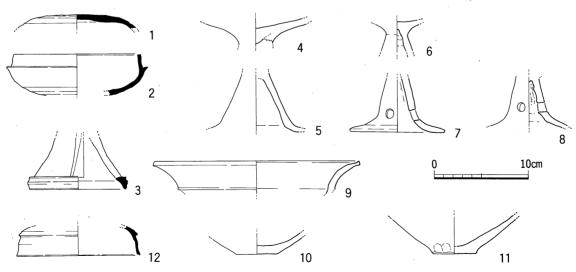


第2図 竪穴住居(SH02)検出状況



第3図 土器出土状況(SH02)



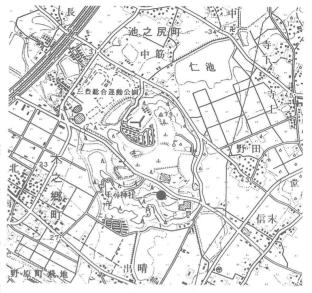


(1.2…SH-01, 3~8…SH-02, 9~11…土器溜り, 12…表採) 第5図 出土遺物実測図

はがみやま 母神山古墳群 (久米塚古墳)

- 1. 所 在 地 観音寺市粟井町字母神705番地1
- 2. 調查主体 観音寺市教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年10月23日 ~平成8年2月2日
- 4. 調査面積 約4,981 m²
- 5. 調查担当者 社会教育課 久保田昇三
- 6. 調査の原因 観音寺市埋蔵文化財調査事業
- 7. 調査結果の概要

トレンチ調査と地形測量により埋葬施設の開口方向と墳丘の範囲等の確認を行い、その後、石室全体の遺構検出を行った。以下はその簡単な概要である。昭和30年代の樹園地開墾のため墳丘上部の盛土と石室天井石や側壁の一部も失われている状況であった。墳丘規模は直径約21



第1図 遺跡の位置(「観音寺」)

m、墳形は円墳と考えられ、埋葬施設には横穴式石室を基本構造に持ち、築造年代はその出土遺物により6世紀後半のものと推定される。中でも、特徴的であるのは、その石室構造にある。玄門立柱が石室内部に突出しており、羨道内にはそれ自体を半分に区切る2列の仕切石があり、それを境界として玄室側の半分の床面に小円礫が敷き詰められる構造は、あたかも、複室構造の前室を連想させる形態をとっている。また、石室の閉塞状況や排水施設並びに墓道についての資料が得られたこともその成果である。出土遺物は、明治38年に荻田元広氏による発掘調査時にほとんどが搬出されていた。主なものは鉄器片(馬具)、管玉1点、ガラス製小玉1点、須恵器片等である。

8. まとめ

今回の調査により、本遺跡は一部破壊は受けているが母神山古墳群の中では比較的良好な残

存状況が確認され、同古墳群内での久米塚の位置づけとその 保存と活用に関する貴重な資料が得られた。なお、古墳の築 造過程、石室の構造、追葬の時期等については、今後検討を 加えたい。 (久保田)



第2図 石室全景



第3図 羨道部の状況

ひさごづか ひきごづか 日神山古墳群(瓢箪塚古墳 他)

- 1. 所 在 地 観音寺市木之郷町字上羽上 469番地1外
- 2. 調查主体 観音寺市教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年5月8日~5月22日
- 4. 調査面積 約94 m²
- 5. 調查担当者 社会教育課 久保田昇三
- 6. 調査の原因 公園造成
- 7. 調査結果の概要

今回の調査の目的は、公園造成に係る地域内の遺跡の有無の確認と隣接する瓢箪塚の墓域(周溝)の確認であった。まず、瓢箪塚の墓域の確認のためT1、T2、T3のトレンチを設定した。T1では確認できなかったが、T2、T3については周溝及び外堤と思われるものを



第1図 遺跡の位置(「観音寺」)

確認することができた。特にT2については、表土下約90cmで周溝の底部面に達し、いずれも破片であるが、須恵器、円筒埴輪、須恵質円筒埴輪等が出土している。また、その他にT4、T5、T5-2、T6、T7のトレンチを設定したがT6を除き遺構の確認はできなかった。T6については、横穴式石室の遺構を確認した。残存状況は悪く側壁の積石で三段程度であり、石室の規模は詳しい調査結果を待たなければならないが玄室で長さは3.4m、幅1.6m程度のものと思われる。出土品は須恵器片1点のみで現在のところ年代は確定していない。

8. まとめ

瓢箪塚については、昭和61年度に前方後円墳の後円部の周溝が確認されていたので、今回の西側側面の調査結果と合わせて墓域をほぼ確定できたことに成果があった。また、T6で確認された横穴式石室の遺構はこれまで全く知られていないものであり、今回は、石室のみの確認であったので、今後の調査において墳丘規模、及びその他の遺構を調査し遺跡の性格、形態、築造年代等を明らかにするとともに近接の遺跡との関係などを検討する必要がある。

(久保田)



第2図 瓢箪塚の周溝の状況(T2)



第3図 円筒埴輪片出土状況

^{みややま} 宮山窯跡・深山窯跡

- 1. 所 在 地 豊中町大字比地大3280-6ほかと
- 2. 調査主体 豊中町教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年12月1日 ~平成8年3月29日
- 4. 調査面積 約180 m²
- 5. 調查担当者 文化財担当 森 裕行
- 6. 調査の原因 道路建設
- 7. 調査結果の概要

今回の発掘調査は、調査地を 9 ヶ所定めてトレンチ掘りによる発掘調査をおこなった。

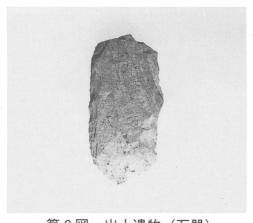


第1図 遺跡の位置(「仁尾」「観音寺」)

調査の結果、現代の畑地改良事業による遺構以外の遺構の検出はなかった。9ヶ所のトレンチの数ヶ所より須恵器の破片の検出をみたが、時代を特定することが可能な遺物は数点であった。また須恵器の破片の総量は50点ほどであった。第1トレンチの客土中より弥生時代後期の甕の口縁部と石包丁・石鏃・石匙・スクレイパーなどが数点検出された。

8. まとめ

調査をおこなった地点には遺構が存在していない可能性が高いことが分かった。宮山窯跡は 3280-1を中心としてせまい範囲に存在している可能性が高いと考えられる。深山窯跡はもう 少し山側にあると考えられる。今回の調査で弥生時代の遺物が出土しているために近辺に遺跡 の存在を考えることができる。 (森)



第2図 出土遺物(石器)



第3図 第9トレンチ

三 井 遺 跡

1. 所 在 地 仲多度郡多度津町大字三井

2. 調査主体 多度津町教育委員会

3. 調査期間 平成7年10月17日~10月27日

4. 調査面積 110 m²

5. 調査担当者 多度津町教委 岡 敦憲

6. 調査の原因 遺跡確認調査(国庫補助事業)

7. 調査結果の概要

今年度の調査地点は、三井樋の口地区を中心 とした「三井遺跡」の東方における端境の確認 と新たな遺構・遺物の有無の確認を目的として公言 設定した。

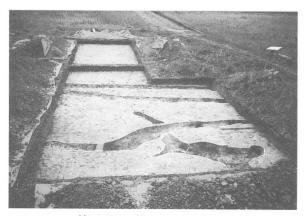


第1図 遺跡の位置(「善通寺|「丸亀|)

調査の結果、溝状遺構3条を確認したに止まった。溝の方向は、現在の地割りと同方向であ ることを確認した。遺物は若干出土したが、時代を特定できうるだけの資料は出土しなかった。 8. まとめ

今回の調査では、三井樋の口地区を中心としたいわゆる「三井遺跡」からの連続したと考え られる遺構の存在は確認できなかった。

しかしながら、3条の溝状遺構を検出したことから、遺構は希薄ではあったが本来周知の包 蔵地として知られている「三井遺跡」とは別の遺跡が存在する可能性が生じ、今後の課題とし て、調査地点を中心とした地域を新たに調査する必要性が生じた。 (岡)



第2図 第1トレンチ



第3図 第2トレンチ

宮が尾古墳・宮が尾2号墳

- 1. 所 在 地 善通寺市善通寺町3223-45ほか
- 2. 調查主体 善通寺市教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年9月25日~11月30日
- 4. 調査面積 約250 m²
- 5. 調查担当者 文化振興室主事 笹川龍一
- 6. 調査の原因 史跡有岡古墳群保存整備事業
- 7. 調査結果の概要

本市では古代の集落遺跡は平野部に展開し、 市街地南西の丘陵部は古墳地帯であることが知 られており、昭和57年度の王墓山古墳発掘調査 を契機に主要古墳6基が史跡指定を受け、昭和 61年度から史跡の保存整備事業が行われている。 今年度は線刻壁画で知られる宮が尾古墳の保存 整備事業に伴う開口部と羨道部、そして解体復



第1図 遺跡の位置(「善通寺」)

元工事に伴う墳丘東側の断面構造の調査、そして平成5年度に新たに発見された2号墳の未調査部分の発掘調査を実施した。本墳では開口部と羨道部から多量の遺物が出土した。これまでの調査では僅かな副葬品しか確認されておらず、構築時期や被葬者、そして当時の葬送儀礼について考える上で貴重な資料となる。また開口部から墳丘裾部に沿って西側に延びる墓道が確認されたため、この部分に調査区を拡張したところ、ここからも多量の遺物が出土した。また本墳東側の墳丘断面調査では墳丘の構築状況を詳しく知ることができたが、調査中に墳丘中から線刻画のある石材が複数出土した。

8. まとめ

宮が尾古墳と2号墳からは多量の副葬品が確認された。これらの遺物の詳細な分析と比較検討は、終末期におけるこの地の群集墳の様相を知る手掛かりとなるものと期待される。また、墳丘内から出土した線刻画のある石材については、使用予定の石材が破損したものを土留め石材に転用したものであり、古墳構築技術者と線刻画を施した人物との関係、古墳構築と並行して進行する葬送儀礼について考える上で大変貴重な資料であり、今後の分析が待たれる。

(笹川)



第2図 宮が尾古墳開口部検出状況



第3図 宮が尾2号墳検出状況

香色山遺跡群

- 1. 所 在 地 善通寺市善通寺町1050-1
- 2. 調査主体 善通寺市教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年7月10日~9月6日
- 4. 調査面積 約20m²
- 5. 調查担当者 文化振興室主事 笹川龍一
- 6. 調査の原因 善通寺市内遺跡調査事業
- 7. 調査結果の概要

総本山善通寺の西側に隣接する標高157mの 香色山山頂部は松枯れにより樹木を失い、風雨 による土砂の流出が著しい。ここでは既に岩盤 が露出しており、山頂部南側では石棺墓の一部 が地表面に姿を表していた。また、現地には江 戸時代に経塚が発見されたという記録も残る。 現地を踏査したところ、他にも多数の遺構が残



第1図 遺跡の位置(「善通寺」)

されていることが判明した。そこで、これらの貴重な遺構が失われてしまう前に、保存のための基礎的な資料を得ることを目的として発掘調査を実施した。

調査の結果、12世紀代に構築された上下二段構造の経塚が発見された。上部石郭内は攪乱されていたが、下部の石郭は未盗掘であり美しい蓮華飾り紐を持つ経筒が出土した。経塚は1号経塚や江戸時代に発見されたもの以外にも2箇所に痕跡が確認され、他にも弥生時代の所産とみられる石棺墓3基、小児壺棺墓1基が確認された。

8. まとめ

今回、1号経塚の遺構や遺物などから得られた数々の情報は、讃岐の経塚を考えるだけでなく、今後全国的に経塚の性格や造られた環境を考える上で高く評価される。経巻は風化消滅し経筒に銘文などは認められないが、遺構の構築場所の歴史的環境などから、弘法大師の末裔である佐伯一族と真言宗総本山善通寺が関わったものであることは疑いない。願主が属する集団や宗派などの手掛かりまで、ある程度明らかにできる大変貴重な資料であり、今後の経塚研究の発展が期待される。

参考文献「香色山遺跡群調査報告書」善通寺市教育委員会 1996.3

(笹川)



第2図 2号石棺墓検出状況



第3図 1号経塚下部石郭経筒出土状況

柳 梨 城 跡

- 1. 所 在 地 仲多度郡琴平町1490ほか
- 2. 調査主体 琴平町教育委員会
- 3. 調査期間 平成8年2月9日~2月13日
- 4. 調査面積 約100 m²
- 5. 調査担当者 社会教育主任 澤井達朗
- 6. 調査の原因 公園及び登山道整備事業
- 7. 調査結果の概要

琴平町と善通寺市の境にある如意山西側山頂部(櫛梨山)には、戦国時代の山城が存在している。この城跡は如意山西端の標高147m程の高まりを中心に構築されており、主郭はこの山頂部にある。自然地形を利用した主郭は東西に約80m、南北に約25mと広大である。主郭の周囲は幅の狭い帯状の平坦地が二重~三重に取り



第1図 遺跡の位置(「善通寺」)

囲んでいる。東側は二重の空堀を設け連続する尾根続きを遮断している。西側も主郭から三段の帯状郭を経た後に空堀により尾根続きを遮断しているが、ここから尾根西端まで緩やかに傾斜した平坦地が続き、西端の郭と連鎖している。この山は中世山城が構築されていることでも解るように、急崖地形であるため登山は容易ではない。しかしこの山頂からの展望は優れており、琴平町が遊歩道建設を計画した。そこで町教育委員会が遊歩道建設範囲内で遺構の確認調査を実施した。山頂の主郭から西に下る傾斜地に連続する三段の帯状郭群の調査では、地山を削り出した平坦部上に更に盛り土をして構築した郭の構造が明らかにされた。ここでは使用痕のある土器や火炎を受けた石材が多数出土している。また、山頂主郭中央部にも小調査区を設けたところ、柱穴が確認され、構造物を伴っていたことが明らかにされた。

8. まとめ

主郭や西側尾根先端部の郭からは丸亀平野全体が展望でき、付近の同時期の城跡も視野に入る。この地に立派な山城を築いた集団については明らかではないが、その規模などからかなりの有力者であったことは疑いない。やがて遊歩道建設により多くの人々がこの地を訪れるようになるが、この事業が貴重な文化遺産保存の意識高揚につながることを切に願う。



第2図 山頂の広大な主郭



第3図 山頂西側傾斜地の郭断面

中 の 池 遺 跡

- 1. 所 在 地 丸亀市金倉町
- 2. 調査主体 丸亀市教育委員会
- 3. 調查期間 平成7年8月24日~9月20日
- 4. 調査面積 240 m²
- 5. 調查担当者 東 信男
- 6. 調査の原因 遺跡範囲の確認
- 7. 調査結果の概要

昭和56年度の発掘調査により、確認された中 の池遺跡の西側と南西側で、試掘トレンチを設 定した。トレンチは1~3区で、1区は東西に 長く、2区はT字形のトレンチで南北に長く、 西に延長している。3区は、1区と2区の続き礼 を確認するため、表土掘削のみに止めた。各調 査区とも、耕作土直下で遺構を検出する。1区



第1図 遺跡の位置(「丸亀」)

では、中世の土こうとピットの下から、三条の溝状遺構を検出している。西から SD01、中央 を SD02、東側を SD03とした。これらの溝は弥生時代前期新段階の土器を包含する。SD03は、 底部で黄褐色粘質細砂層を削り出して、中央部で畝状となるため SD03Wと SD03Eに区別した。 SD03Eは東側で階段状となり、ピット列が検出された。SD02は中央部が一段低くなる。SD01 と SD03Wの下の砂層から縄文晩期の土器が出土している。 2区では1区に続く溝状遺構とそ の西側で、土こうやピットを多数検出した。

8. まとめ

調査の結果、SD03は昭和56年度調査のSD8105と繋がるものと推定され、この環濠の直径は 約55~60mある。2区の調査結果から、環濠範囲外にも弥生時代前期の遺構があり、遺跡の範



第2図 第1トレンチ弥生前期遺構検出

囲が広がることが確認された。1区で縄文晩期の 浅鉢が出土しており、縄文晩期の遺跡も展開する と推定される。

(東)



第3図 第1トレンチ SD01出土土器

平 池 西 遺 跡

- 1. 所 在 地 丸亀市金倉町
- 2. 調査主体 丸亀市教育委員会
- 3. 調查期間
 - (1) 平成7年5月29日~平成7年9月19日
 - (2) 平成7年11月30日~平成8年3月7日
 - (3) 平成8年3月7日~平成8年3月25日
- 4. 調査面積 (1) 1,600 m²
 - $(2) 425 m^2$
 - (3) 263 m² (試掘調査)
- 5. 調査担当者 東 信男
- 6. 調査の原因 丸亀市総合運動公園開発事業
- 7. 調査結果の概要



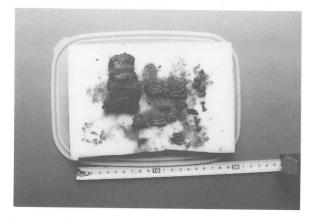
第1図 遺跡の位置(「丸亀」)

耕作土直下で遺構を検出した。検出した遺構は中世の建物跡と溝跡、弥生時代後期の溝状遺構、弥生時代前期の溝状遺構とピットや土こう、縄文時代晩期の杭、流木を検出した。中世~弥生時代前期の遺構は、耕作土直下で検出されるため、遺構の残存状態は悪い。ただし、各溝状遺構の埋土には遺物を多量に包含する。特に弥生時代前期の土器が多く、また弥生時代前期の溝状遺構の下には、植物遺体(主に葉を多量に包含する)を包含する層があり、この下の砂利層からは縄文晩期の土器と流木やクルミ、トチ、ドングリの種子も出土している。

出土遺物は、弥生時代後期の土器片、弥生時代前期の土器片(壺、甕、蓋)と石器(磨製石包丁、石鎌、石鏃、石斧、石錘、サヌカイト片)、赤漆の木器があり、縄文晩期のものは、浅鉢と深鉢で、深鉢は条痕文や爪形文があり、浅鉢は黒色磨研の浅鉢である。

8. まとめ

当遺跡の西北部約300mには中の池遺跡が位置し、この地域には弥生時代前期の遺構が広範囲に分布する。また、突帯文以前の縄文晩期の遺跡も展開することが確認された。 (東)



第2図 漆製品(弥生前期)



第3回 自然流路(縄文晚期中頃)

清源寺古墳

- 1. 所 在 地 仲多度郡満濃町大字長尾樫林 2578-1ほか
- 2. 調査主体 満濃町教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年12月18日 ~平成8年3月7日
- 4. 調査面積 500 m²
- 5. 調査担当者 満濃町教委 平田友彦 多度津町教委 岡 敦憲
- 6. 調査の原因 団体営土地改良総合整備事業 天神地区区画整理工事

7. 調査結果の概要

前年度に行われた墳丘測量を中心とした事前 調査に引き続き、今年度は本調査を実施するこ ととなった。石室開口部付近及び石室内は羨道



第1図 遺跡の位置(「滝宮」)

天井石・墳丘土及び故意的に埋め固められたと考えられる土砂に埋もれていた。石室は一辺が約2.1mの方形持ち送りプラン、羨道部は約3.7mであった。墳丘部については、開墾あるいは盗掘等によって相当部分削られており、形状は円墳は確かなものの規模については十分な判定はできなかった。

遺物は、須恵器坏身蓋・高坏身蓋及び鈴付高坏(?)、鉄製品では、刀子・鉄鏃・不明鉄器、玉類では管玉・小玉・勾玉・なつめ玉・切り子玉など予想をはるかに越える副葬遺物が出土した。

出土遺物から、6世紀末から7世紀初頭と考えられる。

8. まとめ

今回の調査により出土した遺物のなかで、須恵器の鈴付高坏(?)については、県内では類例がないものであり、また、全国的にみても数が少ないことから、近隣の古墳文化とは異なった文化(圏)があったと考えられる。この特異な形の須恵器は、年代が若干異なるが、山陰地方で出土しており、この地方との関連あるいは満濃町の古墳文化について今後検討を重ね、満濃町の埋蔵文化財をひとつひとつ解明していきたい。



第2図 羨道部の状況



第3図 遺物出土状況

ひつ いし おお さかじょうざん せき 櫃石大阪城残石

- 1. 所 在 地 坂出市櫃石67
- 2. 調査主体 坂出市教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年9月7日 平成8年2月23日 平成8年3月11日~22日
- 4. 調査面積 400 m²
- 5. 調查担当者 社会教育課 今井和彦
- 6. 調査の原因 分布調査
- 7. 調査結果の概要

坂出市の最北端に位置する櫃石島に大阪城の 残石が残されていることは、地元でも古くから、 伝承されており、特に地元の郷土史家の東山包 雄氏の地道な研究によって明らかにされてきた ものである。その後、昭和53、54年に日本古城



第1図 遺跡の位置(「下津井」「本島」)

友の会が大阪城の築城石の塩飽諸島からの採石状況を調査した際、櫃石島もその調査対象地となり、従来知られていた残石以外にも多くの発見がなされ、特に串団子刻印と越前の文字が同一石材に刻まれていることも確認され、その後の調査報告でもこの丁場が越前藩との関わり深いことが考察されていた。

近年、この刻印石の表面の風化が進み、保存を危惧するとの連絡が東山氏からもあった。これを受けて、現地の踏査を実施し、刻印石の状況やその位置確認を行い、今後の保存検討資料とすることとした。

8. まとめ

刻印石は四望眺とよばれる山頂を中心に南西斜面方向に多く確認されたが、従来発見された 6個の串団子刻印石のうち5個までが確認できたほか、矢穴で割ったままの状態の巨石が3箇 所確認された。また石割り前の矢穴を穿った岩も確認されたが、山全体が下草で覆われており、その全貌の確認までは至っていない。石を下ろした山下し道も南斜面に残っており、丁場跡の石材以外の遺構として注目される。刻印石については、石の表面に施されたものの風化が著しく、まず刻印の保存処理方法の検討が必要と考えられる。 (今井)



第2図 ぜにがみ石 串団子刻印

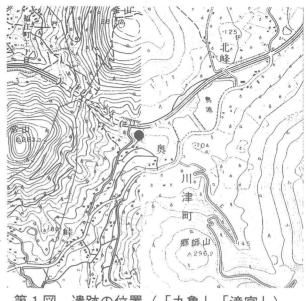


第3図 矢穴割り石

山 古 墳 金

- 1. 所 在 地 坂出市川津町1898-2
- 2. 調查主体 坂出市教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年12月13日 ~平成8年3月8日
- 4. 調查面積 100m²
- 5. 調查担当者 社会教育課 今井和彦
- 6. 調査の原因 遺跡確認調査
- 7. 調査結果の概要

今年度の市内遺跡発掘調査は、開発に伴う調 査を継続しながら、開発計画以前に先行して遺 跡確認調査を実施することも行った。対象としる ては、サヌカイト原産地として有名な金山山麓 に位置し、11号バイパス工事で一時的にその位・ 置が不明となっていた金山古墳の調査を実施す



第1図 遺跡の位置(「丸亀」「滝宮」)

ることとした。金山古墳は「香川考古」誌上で石室実測図が紹介されているが、今回の墳丘確 認調査に合わせて再度石室の実測と床面の精査を実施した。

石室は主軸がほぼ磁針方位と一致し、東壁4m10cm、西壁3m30cm、幅1m10cmを測り、床 面から天井までの高さ1m38cmを計測した。床面の一部にサヌカイト礫が充填されており、奥 壁部と入口部ではサヌカイト礫は認められず、玄室と羨道の区別のための礫床と考えられる。

墳丘は後世の開墾により第2次墳丘は大半が削平されているが、第1次墳丘が残ることが確 認され、盛土の残存状況から第1次墳丘径約6m、第2次墳丘径約10m規模の古墳であったと 考えられる。

8. まとめ

金山古墳は古くから開口していたこともあり、今回の調査でも出土遺物が殆ど得られず、詳 細な時期決定はできないものであった。しかし、その石室規模などは対岸の郷獅山に位置する 折居古墳とほぼ同規模であり時期的にも近接した可能性が高い。両墳とも無袖の小型古墳で天 井も低く、この付近の終末期の古墳と考えられる。折居古墳も遺物は少量であったが7世紀前 葉の時期であり、金山古墳もほぼこの時期の築造と推察される。 (今井)



第2図 石室状況



第3図 礫床検出状況

- 1. 所 在 地 坂出市府中町5060-3
- 2. 調查主体 坂出市教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年9月18日~10月23日
- 4. 調査面積 39m²
- 5. 調查担当者 社会教育課 今井和彦
- 6. 調査の原因 個人住宅建設
- 7. 調査結果の概要

昨年度の讃岐国府内での個人住宅建設は4件と続いたが、今年度は1件のみであった。今回の調査地はかつて昭和52~53年にかけて国府内ではじめて実施された個人住宅建設に伴う調査地の東北に隣接する地区であり、国府域東方の遺構状態を再確認できるものと考えられた。

調査区は国庁碑の東に広がる水田を含み、こ



第1図 遺跡の位置(「白峰山」)

の部分で南北に長くトレンチを設定して調査にあたった。調査区南は耕作土下に暗灰色の土層を含み、下位に暗褐色粘質土が認められた。地表下約50cm程で明黄色の地山が確認され、地山面にて径約 $10\sim20$ cmの柱穴が $3\sim4$ 穴検出された。南区中央部で地山面を約5cm程下げた位置で幅約1.2m、深さ約80cmの東西方向の溝状遺構が確認され、磁針方位で $N-60^{\circ}-E$ を示す。遺物は平瓦小片ほか土師質小片のみの出土で時期決定はできないが、上位に暗褐色土が堆積し、全体が地山類似の暗黄褐色粘砂質のシルト層で堆積していた。

南区は東端で地山が浅く、西に向かって落ちる傾向にあり、包含層も厚みを増すのが観察された。

北区は現状の水田でも一段低い位置となっており、下層の包含層も削平が及んでいた。地山

面にて浅い溝状遺構が検出された以外は遺物も殆ど検出されていない。

8. まとめ

当該調査区は国庁碑東に位置し、石碑西方の水田よりは1 m以上の段差が残る地点であり、国府調査の最初の調査区に 隣接した場所でもあった。

南区は耕作土下の浅い位置に地山が確認され、溝など残りの良い遺構も残存することが確認された。また、地表高は東に向かって落ちる傾向にあるが、地山は逆に西に向かって落ちることも確認された。北区は後世の水田造成で削平されたと考えられ、遺構の残りは非常に悪い。

今回の調査では国庁碑東の南寄りの小高い水田下には遺構が良好に残されている可能性が高く、綾川の氾濫を免れた国府関連遺構も残存している可能性がより高くなったものと思われる。 (今井)



第2図 遺構状況

大 大 大 造 跡

- 1. 所 在 地 綾歌町栗熊西字板井戸
- 2. 調査主体 綾歌町教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年10月22日~12月31日
- 4. 調査面積 約2,500 m²
- 5. 調查担当者 綾歌町教育委員会 近藤武司
- 6. 調査の原因 町道改良工事
- 7. 調査結果の概要

行末遺跡は昨年度の調査により周知となったでものである。今年度この付近で町道拡幅工事が表行われることになったため、事前調査を実施した。

調査区は南北に約300mでそのうち北部の150 に mにかけては僅かに土器片及び溝状遺構が検出 されたが内容を把握する資料は得られなかった。



第1図 遺跡の位置(「滝宮」)

なお、地山層以下は全体的に水分を多量に含む淘汰の良い砂層になっている。その下部は黒色 の粘土層で以前は自然の流路であったことを物語っている。

南部には弥生時代前期から古墳時代前期にかけての遺構が高い密度で所在していた。南端より北に向かって弥生時代前期(SD1)及び後期(SD2)の溝状遺構が並走している。なお、SD2には全域に多量の土器片が堆積していた。

住居については弥生時代前期の掘立柱建物 1 棟と古墳時代前期の方形の竪穴住居を 1 棟検出した。

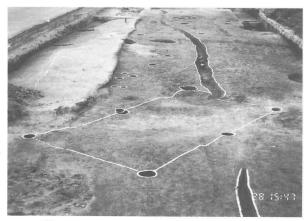
なお、その下層からは縄文時代晩期の主器片を微量と打製石斧等の石器も数点検出した。 8. まとめ

前述の竪穴住居については、現地より約1km東に所在する快天山古墳の築造年代とほぼ一致し、その勢力との関連が考えられる。

今回までの調査の結果、行末西遺跡は縄文時代晩期より古墳時代前期までにわたっての集落跡であることが確認された。 (近藤)



第2図 SD1・2、竪穴住居跡(南より)



第3図 掘立柱建物跡(北より)

佐古川遺跡

- 1. 所 在 地 綾歌町栗熊西字大妻田
- 2. 調査主体 綾歌町教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年4月17、18日、7月29日 平成7年8月21日~9月10日 平成8年1月11日~3月21日
- 4. 調査面積 約6,000 m²
- 5. 調查担当者 綾歌町教育委員会 近藤武司
- 6. 調査の原因 町立総合文化会館建設事業
- 7. 調査結果の概要

佐古川地区は中大東川に面する緩やかな微高地となっている。東側には石塚山古墳群、南部の丘陵部には平尾古墳群、定連池東丘古墳群が所在していることより、かねてから当時の拠点となる集落地であったと予想されていた。今回、



第1図 遺跡の位置(「滝宮」)

綾歌町の行う総合文化会館建設事業により佐古川地区を開発することになったので、遺構分布確認調査を実施した。このことより弥生時代から中世にかけての集落遺跡が南部に所在していることが判明した。その後、開発用地が南部に拡張した為、拡張部分(約4,000㎡)について発掘調査を実施することになった。

遺構は竪穴住居3棟、掘立柱建物3棟のほかは溝状遺構が主体で、うち2条は庄内併行期から古墳時代前期後半まで使用されていたもので多量の土器が含まれていた。また、樋や橋に利用されていたと考えられる木材を数点検出した。さらに弥生後期から庄内併行期の土器片を含む窯の可能性のある土坑も検出した。

8. まとめ

調査の結果、佐古川遺跡は縄文時代晩期より近世にかけての集落跡であったことが判明した。 遺物量から見ても、庄内併行期から古墳時代前期後半にかけては特に勢力を誇っていたものと 考えられ、東部および南部に分布している付近の古墳を築造した勢力との関係が考えられる。 庄内併行期から古墳時代前期後半にかけては遺構の密度が非常に高いので今後の整理作業を早 急に行い、内容・変遷を明らかにしていきたい。 (近藤)



第2図 溝状遺構の遺物出土状況



第3図 竪穴住居及び土坑完掘状況

羽 床 城 跡

- 1. 所 在 地 綾歌郡綾南町羽床下
- 2. 調査主体 綾南町教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年12月13日 ~平成8年1月20日
- 4. 調査面積 約2,000 m²
- 5. 調查担当者 松本豊胤
- 6. 調査の原因 保存管理計画策定
- 7. 調査結果の概要

調査は城郭の構造の把握と、本丸跡における 遺構の確認に主体をおいた。まず構造確認のために雑木を伐開し、20cmコンターによって地形 図を作成した。測量は本丸跡とその東側の土塁 跡及び二の丸跡について実施した。

本丸跡を取り巻くように構築された土塁は本



第1図 遺跡の位置(「滝宮」)

丸跡中央部の標高80.5mに対して82.2mから82.7mを測り、およそ2m程の土塁が構築されている。二の丸は中心部の標高が79.31mで、本丸より1m程低くなっている。本丸から二の丸に通じる虎口は幅1.5mで、未調査のため形式は不明である。測量に平行して本丸跡にトレンチを東西と南北にそれぞれ設定したが、20cm程で地山に達し、遺構は検出されなかった。遺物としては備前のかめの破片と素焼きの土器片が20点ほど出土したが、形式は判明しない。

8. まとめ 羽床城については、全讃史に羽床伊豆守政俊之に居りき、正慶二年(1333年)正月、関東の大衆楠廷尉の拠る所の千剣城を攻む、政俊先登して死せり、とある。また、羽床氏については南海通記に「讃州藤家の嫡家なり、香西、福家は其の庶流なり」とあるが、羽床城の創城年代については明らかでない。現在の城構は、標高83m程の丘陵上に曲輪を構築し、さらに土塁や空堀、帯曲輪などを配した中世城構としての特徴を具備しているが、それがどのような歴史的な変遷を辿ったかについては明らかでない。今後の課題としては、城郭の構造を明らかにし、さらには築城年代を把握するに足る資料を得ることにある。

今回の調査は、城郭の保存措置を講ずるための基礎調査であり、少なくとも地形測量図は完成させる必要があり、あわせて若干の試掘によって遺構の確認も望まれるところである。



第2図 本丸跡から二の丸跡を望む



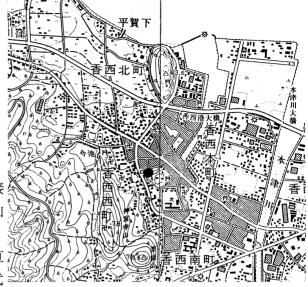
第3図 トレンチ掘削状況

藤尾城跡

- 1. 所 在 地 高松市香西本町475番地ほか
- 2. 調査主体 高松市教育委員会
- 3. 調査期間 平成8年2月5日~3月14日
- 4. 調査面積 約31.8 m²
- 5. 調査担当者 高松市教育委員会 藤井雄三、末光甲正
- 6. 調査の原因 香西公民館拡張工事
- 7. 調査結果の概要

高松北警察署香西駐在所構内およびその隣接 地にトレンチ6ヶ所を設定し、風化花崗岩地山 面が確認できる層まで掘削した。

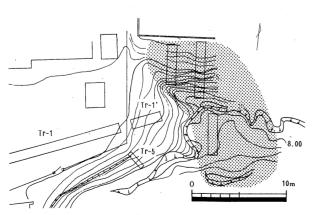
Tr-1は現状菜園で、層厚15~20cmの耕土直下の平坦な地山面に、水道管埋設溝を切る現代のピット5点がある。昭和初期までの小学校用



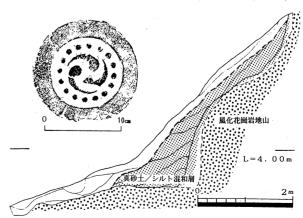
第1図 遺跡の位置(「高松南部」)

地が、現レベルに削平されたものである。Tr-1'およびTr-5もその延長面と考えられる。宇佐八幡社域北側崖面にあたるTr-2とTr-4は、風化花崗岩地山面からなる裾部に、幅約3 mの平坦部とそれに接した高さ約2 mのほぼ垂直な面による断面L字状切削面が検出され、Tr-2は垂直部の上部に約45°の傾斜をもつ比高差2 m弱の地山面が延びて上部のテラス上面に続く。Tr-4も同様な形状であったとみられるが、上部は欠失している。Tr-3は現地表下約30cmに、備前焼片等を含む平坦面がテラス状にひろがる。

8. まとめ Tr-2, 4の地山切削面上に、叩きつけたとみえる堅く締まった層厚 $20\sim30$ cmの風化花崗岩砕片および真砂土/シルト混和層が互層を呈して貼りつき、第3図の波線下部の各層には土師質土器細片がまんべんなく混入し、第3図の巴文軒丸瓦も出土した。第2図のスクリーントーン部は、これらの遺物該当時期の地貌に近いとみられる。Tr-2, 4のL字状断面は、見掛け上、中世城郭の「切岸/切崖」に類似するものの、巴文軒丸瓦を含めて、確実な年代比定に結びつく遺物に乏しく、宇佐八幡ないし伝「神宮寺」に関わる遺構とみるべきかも知れない。なお方10余m平方のひろがりをもつTr-3の平坦面は、小規模郭の旧状をとどめている可能性が考えられる。 (末光)



第2図 調査区地形概要図



第3図 Tr-2土層断面/Tr-4出土瓦拓本

- 1. 所 在 地 高松市上天神町
- 2. 調査主体 高松市教育委員会
- 3. 調査期間 平成7年10月19日~20日
- 4. 調査面積 140m²
- 5. 調査担当者 高松市教育委員会 山本英之 中西克也
- 6. 調査の原因 四国電力変電施設建設

7. 調査結果の概要

調査地点は高松東道路の上天神交差点より東約150mの位置であり、現況は2枚の高低のある水田であった。調査区に南北と東西方向のトレンチを設定した。その結果、南北方向の第1トレンチでは溝1本、土坑1個、ピット5個が検出された。東西の第2トレンチでは、溝1本



第1図 遺跡の位置(「高松南部」)

とピット 2 個が検出された。検出面は現水田直下の黄褐色砂質シルトである。第 1 トレンチの SD01 は、幅65cm、深さ15cmを測り、僅かに蛇行しながら南から北に流れている。溝の南端は後世の削平により消滅しており、検出できた総延長は36.9mである。北端は調査区外に延びている。埋土は黒褐色シルト質極細砂の単一層で、底面のレベルは北側に緩やかに下がっている。出土遺物には、2 条の沈線を有する壺破片や底部片が数点あり、その時期は弥生時代前期と考えられる。第 2 トレンチの SD02は、南北方向に延びる溝で、幅45cm、深さ10cmを測る。遺物の出土はないが近世のものである。SK01は第 1 トレンチ北端にあり、直径 2 mで深さ44cmを測る。近世の肥溜めである。7 個のピットは非常に小さいもので、その位置関係は不規則である。埋土は SD01と同一である。

8. まとめ

本遺跡は、香川県教育委員会と(財香川県埋蔵文化財調査センターが調査した上天神遺跡の1 区東端に南接しており、本遺跡の SD01は位置関係や出土遺物の時期より1区の SD09と同一の 溝であると考えられる。



第2図 完掘状況



第3図 トレンチ完掘状況